

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 ( 2014年度入学生 )

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	マクロ経済分析基礎 田中 淳平	1学期		2	1
	ミクロ経済分析基礎 朱 乙文	1学期		2	2
	計量経済分析基礎 林田 実	1学期		2	3
	財政学I 藤 貴子	1学期		2	4
	地域経済論 田村 大樹	1学期		2	5
	経済史 土井 徹平	1学期		2	6
	会計学I 白石 和孝	1学期		2	7
	財務会計I 西澤 健次	1学期		2	8
	経営学I 晴山 英夫	1学期		2	9
	マーケティング 別府 俊行	1学期		2	10
	経営組織論 山下 剛	1学期		2	11
	情報管理基礎 池田 欽一	1学期		2	12
	マクロ経済学 田中 淳平	2学期		2	13
	ミクロ経済学 朱 乙文	2学期		2	14
	財政学II 藤 貴子	2学期		2	15

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	金融論 後藤 尚久	2学期		2	16
	国際金融論 前田 淳	2学期		2	17
	産業組織論 後藤 宇生	2学期		2	18
	統計学 林田 実	2学期		2	19
	計量経済学 藤井 敦	2学期		2	20
	労働経済学 畔津 憲司	2学期		2	21
	環境経済学 牛房 義明	2学期		2	22
	応用地域科学 奥山 恭英	2学期		2	23
	会計学II 白石 和孝	2学期		2	24
	財務会計II 西澤 健次	2学期		2	25
	管理会計 梅澤 俊浩	2学期		2	26
	経営学II 遠藤 雄二	2学期		2	27
	経営戦略論 浦野 恭平	2学期		2	28
	コーポレート・ファイナンス 松本 守	2学期		2	29
	人的資源管理 福井 直人	2学期		2	30

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	企業論	2学期		2	31
	山岡 敏秀				
■文化・言語専攻	英語翻訳研究	2学期		2	32
	野島 啓一				
	中国民族文化研究	1学期	2	2	33
	未開講	2年			
	中国民間文学研究	2学期		2	33
	金縄 初美				
中国古典文学研究	2学期		2	34	
竹村 則行					
■東アジア専攻	中国研究概論	1学期		2	35
	堀地 明 他				
	東南アジア研究概論	1学期		2	36
	田村 慶子 他				
	アメリカ社会史概論	1学期		2	37
	寺田 由美				
	アメリカ人種関係概論	1学期		2	38
	北 美幸				
	国際関係研究概論	1学期		2	39
	大平 剛 他				
	現代中国政治研究	2学期		2	40
	下野 寿子				
	東アジア国際政治研究	2学期		2	41
休講					
現代韓国経済研究	2学期		2	41	
尹 明憲					
日本社会史研究	2学期		2	42	
八百 啓介					
近代日本政治外交史研究	2学期		2	43	
小林 道彦					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■東アジア専攻	東南アジア近現代史研究 篠崎 香織	2学期		2	44
	東南アジア地域研究I 伊野 憲治	2学期		2	45
	東南アジア地域研究II 田村 慶子	2学期		2	46
	アメリカ社会史研究 寺田 由美	2学期		2	47
	アメリカ人種関係研究 北 美幸	2学期		2	48
	国際経済研究 魏 芳	2学期		2	49
	国際機構研究 山本 直	2学期		2	50
■特別研究科目	特別研究基礎 田中 淳平	1学期	1	2	51
	1年				
	特別研究基礎 朱 乙文	1学期	1	2	52
	1年				
	特別研究基礎 林田 実	1学期	1	2	53
	1年				
	特別研究基礎 田村 大樹	1学期	1	2	54
	1年				
特別研究基礎 後藤 尚久	1学期	1	2	55	
1年					
特別研究基礎 前田 淳	1学期	1	2	56	
1年					
特別研究基礎 後藤 宇生	1学期	1	2	57	
1年					
特別研究基礎 藤井 敦	1学期	1	2	58	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 牛房 義明	1学期	1	2	59
		1年			
	特別研究基礎 奥山 恭英	1学期	1	2	60
		1年			
	特別研究基礎 白石 和孝	1学期	1	2	61
		1年			
	特別研究基礎 西澤 健次	1学期	1	2	62
		1年			
	特別研究基礎 別府 俊行	1学期	1	2	63
		1年			
	特別研究基礎 池田 欽一	1学期	1	2	64
		1年			
	特別研究基礎 浦野 恭平	1学期	1	2	65
		1年			
	特別研究基礎 山岡 敏秀	1学期	1	2	66
		1年			
	特別研究 1 田中 淳平	2学期	1	2	67
		1年			
特別研究 1 朱 乙文	2学期	1	2	68	
	1年				
特別研究 1 林田 実	2学期	1	2	69	
	1年				
特別研究 1 田村 大樹	2学期	1	2	70	
	1年				
特別研究 1 後藤 尚久	2学期	1	2	71	
	1年				
特別研究 1 前田 淳	2学期	1	2	72	
	1年				
特別研究 1 後藤 宇生	2学期	1	2	73	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 藤井 敦	2学期	1	2	74
		1年			
	特別研究 1 牛房 義明	2学期	1	2	75
		1年			
	特別研究 1 奥山 恭英	2学期	1	2	76
		1年			
	特別研究 1 白石 和孝	2学期	1	2	77
		1年			
	特別研究 1 西澤 健次	2学期	1	2	78
		1年			
	特別研究 1 別府 俊行	2学期	1	2	79
		1年			
	特別研究 1 池田 欽一	2学期	1	2	80
		1年			
	特別研究 1 浦野 恭平	2学期	1	2	81
		1年			
	特別研究 1 山岡 敏秀	2学期	1	2	82
		1年			
	特別研究 2 未開講	1学期	2	2	
		2年			
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 3 未開講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■特別研究科目	特別研究 3	2学期	2	2	
	未開講	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	
	未開講	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	
	未開講	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	
	未開講	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	社会心理学 田島 司	1学期		2	83
	生涯学習論 恒吉 紀寿	1学期		2	84
	臨床心理学 田中 信利	1学期		2	85
	社会福祉援助論 小賀 久	1学期		2	86
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期		2	87
	人間環境学 野井 英明	1学期		2	88
	文化社会学 須藤 廣	1学期		2	89
	都市社会学 稲月 正	2学期		2	90
	コミュニケーション論 休講	2学期		2	
	教育制度論 見玉 弥生	2学期		2	91
	臨床教育学 楠 凡之	2学期		2	92
	福祉コミュニティ論 渡辺 良司	2学期		2	93
	高齢社会論 石塚 優	2学期		2	94
	司法福祉論 深谷 裕	2学期		2	95
	フィールドワーク論 竹川 大介	2学期		2	96

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	臨床社会学	2学期		2	
	休講				
	環境社会学	2学期		2	97
	岩松 文代				
■文化・言語専攻	イギリス文学研究概論	1学期		2	98
	木原 謙一 他				
	アメリカ文学研究概論	1学期		2	99
	前田 譲治 他				
	英語学研究概論	1学期		2	100
	平野 圭子				
	英語教育法研究概論	1学期		2	101
	伊藤 健一 他				
	英語表現法	2学期		2	102
	クレイグ・ランバート				
	現代イギリス文学研究	1学期	2	2	
	未開講	2年			
	イギリス文学研究	1学期	2	2	
	未開講	2年			
イギリス文化研究	2学期		2	103	
アダム・ヘイルズ					
現代アメリカ文学研究	1学期	2	2		
未開講	2年				
アメリカ文学研究	2学期		2	104	
前田 譲治					
アメリカ文化研究	2学期		2	105	
吉川 哲郎					
社会言語学研究	2学期		2	106	
平野 圭子					
英語通訳研究	1学期	2	2		
未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	中国語法研究概論 王 占華	1学期		2	107
	中国文化研究概論 板谷 俊生	1学期		2	108
	中国思想文化研究概論 鄧 紅	1学期		2	109
	中国哲学史研究 鄧 紅	2学期		2	110
	中国語教授法研究 王 占華	2学期		2	111
	中国文化史研究 板谷 俊生	2学期		2	112
	中国語音声学研究 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	中国語教育論研究 胡 玉華	2学期		2	113
	比較文化研究概論 福島 勲 他	1学期		2	114
日本文化研究概論 佐藤 真人 他	1学期		2	115	
言語学研究概論 漆原 朗子 他	1学期		2	116	
比較文学研究概論 ダニエル・ストラック 他	1学期		2	117	
日本宗教文化研究 佐藤 真人	2学期		2	118	
日本美術史研究 未開講	1学期	2	2		
	2年				
日本表象文化研究 真鍋 昌賢	2学期		2	119	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	比較広域文学研究 ダニエル・ストラック	2学期		2	120
	比較広域文化研究 未開講	1学期	2	2	
	ヨーロッパ比較文化研究 福島 勲	2学期		2	121
	日英比較文化研究 フィオナ・クリーサー	2学期		2	
	日米比較文化研究 未開講	1学期	2	2	122
	理論言語学研究 ( 形態論 ) 漆原 朗子	2学期		2	
	理論言語学研究 ( 統語論 ) 未開講	1学期	2	2	123
	東北アジア研究概論 八百 啓介 他	1学期		2	
	アメリカ社会概論 中野 博文	2学期		2	124
	イギリス地域概論 久木 尚志	2学期		2	
近代中国政治史研究 横山 宏章	1学期		2	125	
中国社会史研究 堀地 明	1学期		2		
現代中国経済研究 白石 麻保	2学期		2	126	
東アジア政治思想研究 金 鳳珍	2学期		2		
アメリカ社会研究 中野 博文	2学期		2	127	
	2学期		2		
				128	
				129	
				130	
				131	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■東アジア専攻	イギリス地域研究 久木 尚志	2学期		2	132
	北欧地域研究 五月女 律子	2学期		2	133
	国際協力研究 大平 剛	2学期		2	134
	安全保障研究 戸蒔 仁司	2学期		2	135
	国際政治経済研究 阿部 容子	2学期		2	136
	イギリス文学研究 未開講	1学期	2	2	
		2年			
現代イギリス文学研究 未開講	1学期	2	2		
	2年				
英語表現法 クレイグ・ランバート	2学期		2	137	
アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	138	
現代アメリカ文学研究 未開講	1学期	2	2		
	2年				
英語教育法研究概論 伊藤 健一 他	1学期		2	139	
■専攻共通科目	社会システム総合概論 奥山 恭英	1学期 (ヘア)	1	2	140
		1年			
■特別研究科目	特別研究基礎 田島 司	1学期	1	2	141
		1年			
	特別研究基礎 恒吉 紀寿	1学期	1	2	142
		1年			
	特別研究基礎 松尾 太加志	1学期	1	2	143
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 見玉 弥生	1学期	1	2	144
		1年			
	特別研究基礎 田中 信利	1学期	1	2	145
		1年			
	特別研究基礎 小賀 久	1学期	1	2	146
		1年			
	特別研究基礎 河嶋 静代	1学期	1	2	147
		1年			
	特別研究基礎 楠 凡之	1学期	1	2	148
		1年			
	特別研究基礎 深谷 裕	1学期	1	2	149
		1年			
	特別研究基礎 野井 英明	1学期	1	2	150
		1年			
	特別研究基礎 竹川 大介	1学期	1	2	151
		1年			
特別研究基礎 岩松 文代	1学期	1	2	152	
	1年				
特別研究基礎 クレイグ・ランバート	1学期	1	2	153	
	1年				
特別研究基礎 田部井 世志子	1学期	1	2	154	
	1年				
特別研究基礎 木原 謙一	1学期	1	2	155	
	1年				
特別研究基礎 前田 譲治	1学期	1	2	156	
	1年				
特別研究基礎 吉川 哲郎	1学期	1	2	157	
	1年				
特別研究基礎 平野 圭子	1学期	1	2	158	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 伊藤 健一	1学期	1	2	159
		1年			
	特別研究基礎 鄧 紅	1学期	1	2	160
		1年			
	特別研究基礎 王 占華	1学期	1	2	161
		1年			
	特別研究基礎 板谷 俊生	1学期	1	2	162
		1年			
	特別研究基礎 佐藤 真人	1学期	1	2	163
		1年			
	特別研究基礎 ダニエル・ストラック	1学期	1	2	164
		1年			
	特別研究基礎 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	1	2	165
		1年			
	特別研究基礎 漆原 朗子	1学期	1	2	166
		1年			
特別研究基礎 葛西 宏信	1学期	1	2	167	
	1年				
特別研究基礎 堀地 明	1学期	1	2	168	
	1年				
特別研究基礎 下野 寿子	1学期	1	2	169	
	1年				
特別研究基礎 白石 麻保	1学期	1	2	170	
	1年				
特別研究基礎 金 鳳珍	1学期	1	2	171	
	1年				
特別研究基礎 尹 明憲	1学期	1	2	172	
	1年				
特別研究基礎 八百 啓介	1学期	1	2	173	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 小林 道彦	1学期	1	2	174
		1年			
	特別研究基礎 篠崎 香織	1学期	1	2	175
		1年			
	特別研究基礎 伊野 憲治	1学期	1	2	176
		1年			
	特別研究基礎 田村 慶子	1学期	1	2	177
		1年			
	特別研究基礎 寺田 由美	1学期	1	2	178
		1年			
	特別研究基礎 北 美幸	1学期	1	2	179
		1年			
	特別研究基礎 久木 尚志	1学期	1	2	180
		1年			
	特別研究基礎 五月女 律子	1学期	1	2	181
		1年			
	特別研究基礎 大平 剛	1学期	1	2	182
		1年			
特別研究基礎 山本 直	1学期	1	2	183	
	1年				
特別研究 1 田島 司	2学期	1	2	184	
	1年				
特別研究 1 恒吉 紀寿	2学期	1	2	185	
	1年				
特別研究 1 松尾 太加志	2学期	1	2	186	
	1年				
特別研究 1 見玉 弥生	2学期	1	2	187	
	1年				
特別研究 1 田中 信利	2学期	1	2	188	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		2学期	1	2	
■特別研究科目	特別研究 1 小賀 久	2学期	1	2	189
		1年			
	特別研究 1 河嶋 静代	2学期	1	2	190
		1年			
	特別研究 1 楠 凡之	2学期	1	2	191
		1年			
	特別研究 1 深谷 裕	2学期	1	2	192
		1年			
	特別研究 1 野井 英明	2学期	1	2	193
		1年			
	特別研究 1 稲月 正	2学期	1	2	194
		1年			
	特別研究 1 竹川 大介	2学期	1	2	195
		1年			
	特別研究 1 岩松 文代	2学期	1	2	196
		1年			
	特別研究 1 クレイグ・ランバート	2学期	1	2	197
		1年			
	特別研究 1 田部井 世志子	2学期	1	2	198
		1年			
特別研究 1 木原 謙一	2学期	1	2	199	
	1年				
特別研究 1 前田 譲治	2学期	1	2	200	
	1年				
特別研究 1 吉川 哲郎	2学期	1	2	201	
	1年				
特別研究 1 平野 圭子	2学期	1	2	202	
	1年				
特別研究 1 伊藤 健一	2学期	1	2	203	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		2学期	1	2	
■特別研究科目	特別研究 1 鄧 紅	2学期	1	2	204
		1年			
	特別研究 1 王 占華	2学期	1	2	205
		1年			
	特別研究 1 板谷 俊生	2学期	1	2	206
		1年			
	特別研究 1 佐藤 真人	2学期	1	2	207
		1年			
	特別研究 1 ダニエル・ストラック	2学期	1	2	208
		1年			
	特別研究 1 漆原 朗子	2学期	1	2	209
		1年			
	特別研究 1 葛西 宏信	2学期	1	2	210
		1年			
	特別研究 1 堀地 明	2学期	1	2	211
		1年			
	特別研究 1 下野 寿子	2学期	1	2	212
		1年			
特別研究 1 白石 麻保	2学期	1	2	213	
	1年				
特別研究 1 金 鳳珍	2学期	1	2	214	
	1年				
特別研究 1 尹 明憲	2学期	1	2	215	
	1年				
特別研究 1 八百 啓介	2学期	1	2	216	
	1年				
特別研究 1 小林 道彦	2学期	1	2	217	
	1年				
特別研究 1 篠崎 香織	2学期	1	2	218	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 伊野 憲治	2学期	1	2	219
		1年			
	特別研究 1 田村 慶子	2学期	1	2	220
		1年			
	特別研究 1 寺田 由美	2学期	1	2	221
		1年			
	特別研究 1 中野 博文	2学期	1	2	222
		1年			
	特別研究 1 北 美幸	2学期	1	2	223
		1年			
	特別研究 1 久木 尚志	2学期	1	2	224
		1年			
	特別研究 1 五月女 律子	2学期	1	2	225
		1年			
	特別研究 1 魏 芳	2学期	1	2	226
		1年			
	特別研究 1 大平 剛	2学期	1	2	227
		1年			
特別研究 1 山本 直	2学期	1	2	228	
	1年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				
特別研究 2 未開講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	未開講
		2年			
特別研究 2	1学期	2	2	未開講	
	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	未開講	
	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	未開講	
	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	未開講	
	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	未開講	
	2年				



## マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済分析の前提となるマクロ経済学の基礎知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マクロ経済学の基礎理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マクロ経済学の基礎知識を正しく活用して、現実経済の抱える問題点を正しく理解できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル(2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル(4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 11回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 13回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) 30% 期末試験 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# マクロ経済分析基礎 【昼】

キーワード /Keywords

## ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済分析の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 現代のミクロ経済の諸問題に関連する情報を収集し、分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いての、現実の種々の経済問題への理論的分析手法を理解する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 消費者行動理論(1)：【選好】【効用】【無差別曲線】
- 3回 消費者行動理論(2)：【予算制約】最適消費量の決定
- 4回 消費者行動理論(3)：【スルーツキー方程式】
- 5回 消費者行動理論(4)：【補償需要】
- 6回 生産者行動理論(1)：【生産物市場】【生産要素市場】
- 7回 生産者行動理論(2)：【生産理論】
- 8回 生産者行動理論(3)：【費用理論】
- 9回 生産者行動理論(4)：最適供給量の決定
- 10回 厚生経済学(1)：【エッジワースのボックス・ダイアグラム】
- 11回 厚生経済学(2)：【パレート最適】
- 12回 厚生経済学(3)：【厚生経済学の定理】
- 13回 市場と市場調整
- 14回 経済とミクロ経済分析
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30% レポートもしくは小テスト 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

# ミクロ経済分析基礎 【昼】

## キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、市場、厚生経済学

## 計量経済分析基礎【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計的推定検定を理解し、計量経済学の基礎を固め、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 統計ソフトを用いて、経済データを的確に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 統計的手法を用いて、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

まず、統計処理ソフトウェアSASに習熟する。SASのデータステップ、プロシジャステップ、EXCELとの連携の仕方を学ぶ。次にCAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数などの経済理論を簡単に学習し、これらを題材にしたデータ解析の技術の習得を目指す。

## 到達目標

- ①SASによる統計解析ができるようになる。
- ②回帰分析の理論を理解し、実証分析に利用できるようになる。
- ③CAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数などの実証分析ができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1991.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜参考文献を指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 SASデータステップ
- 2 SASプロシジャステップ
- 3 SASとEXCEL
- 4 SAS出力の読み方
- 5 CAPMの初歩
- 6 CAPMの理論
- 7 CAPMの演習
- 8 CAPMと日本市場
- 9 人的資本論の初歩
- 10 人的資本論の理論
- 11 人的資本論の演習
- 12 人的資本論と日本経済
- 13 ヘドニック価格指数の初歩
- 14 ヘドニック価格指数の理論
- 15 ヘドニック価格指数の演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による ( 100% )。

## 計量経済分析基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

統計学研究を既習していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SAS、CAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数

# 財政学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政や租税の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財政や租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 財政や租税に関する高度な知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

租税論を体系的に学ぶとともに、日本税制の形成過程や仕組みを理解し、現実の税制を理論的に考察する。そして日本税制の抱える課題とその解決策について検討する。

## 教科書 /Textbooks

森信茂樹『日本の税制-何が問題か』岩波書店 2010年 ¥3,456

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

宇波弘貴『図説 日本の税制(平成25年度版)』財経詳報社 2013年 ¥2,268  
 三木義一『日本の税金 新版』岩波新書 2012年 ¥864  
 橋本恭之・鈴木善充『租税政策論』清文社 2012年 ¥3,672

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、税制の機能・役割
- 第2回 課税理論、税の転嫁と帰着
- 第3回 租税理論-包括的所得税、支出税、最適課税論
- 第4回 消費課税の類型
- 第5回 日本税制の歴史と税体系
- 第6回 所得税の概要と日本の所得税の課題
- 第7回 所得税をめぐる議論
- 第8回 社会保障と所得税
- 第9回 法人税の概要と課題
- 第10回 租税理論と所得課税
- 第11回 相続税の概要と課題
- 第12回 消費税の基本的仕組みと課題
- 第13回 地方分権と消費税
- 第14回 地方税の課題
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。  
 なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

# 財政学I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

## キーワード /Keywords

財政 租税

## 地域経済論 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域経済論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。  
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。  
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

## 教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%  
期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 地域経済論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。  
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

## キーワード /Keywords

# 経済史【昼】

担当者名  
/Instructor

土井 徹平 / 経済学科

履修年次  
/Year

単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

講義

クラス  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済史に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経済史

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、これらを相対化し客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何が見えてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代の産業革命を事例として、実際に経済・社会を歴史学的に分析することで、歴史学によって明らかになる諸事実を皆さんに提示していきたいと考えています。そして皆さんが、歴史を受動的に教わるのではなく、歴史を主体的に学び活用する姿勢を養える授業にしたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大いなる分岐」 - 経済成長の分岐点 -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 歴史人口学的見地から見た近世日本
- 第5回 産業革命の謎 - 産業革命を巡る諸言説 -
- 第6回 技術の進歩と社会制度
- 第7回 産業革命の社会的影響
- 第8回 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 - 近代的人格の形成 -
- 第9回 近代的な時間の誕生 - 「時は金なり」の時代 -
- 第10回 産業革命と家族経済 - 労働者家族の経済生活 -
- 第11回 個人・企業・社会 - 「企業社会」の誕生 -
- 第12回 「帝国」の役割 - 資本主義と国家 -
- 第13回 産業革命はアジアで起こり得たか
- 第14回 「近代」と「現代」の連続と断絶
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 経済史【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学に必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と信じてきた方でも、歴史を学問することはまったく可能ですので、歴史をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命 大いなる分岐 マルサスの罠 近代化

# 会計学Ⅰ【昼】

担当者名  
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次  
/Year

単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

講義

クラス  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 会計に関する高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅰでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第14版）』（中央経済社）、桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（第8版2訂）』（有斐閣）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大に期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 会計学I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 財務会計Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

## 教科書 /Textbooks

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13回 IFRSの検討【減損会計】
- 14回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 財務会計I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 経営学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 企業経営に関する専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスの論争を整理・検討する。

## 教科書 /Textbooks

今西宏治著 『株式会社の権力とコーポレート・ガバナンス』 文真堂

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

加護野・砂川・吉村共著 『コーポレート・ガバナンスの経営学』 有斐閣

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者は、毎回、テーマについて報告し、討議を行う。

- 1 - 2回 企業の支配構造の分析
- 3 - 4回 企業主権の検討
- 5 - 7回 内部統治の検討
- 8 - 11回 ガバナンスの国際比較(アングロサクソン型、ライン型、日本型、中国型)
- 12 - 14回 日本のガバナンス改革
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、討議50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

株式会社論の基礎知識を習得しておくのが望ましい。

## キーワード /Keywords

# マーケティング【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マーケティングに関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マーケティング

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

無

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

無

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2~15回 ケース演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合を総合的に評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経営組織の諸問題・諸課題について、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

## 教科書 /Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)  
三井泉編『フォレット』文真堂、2012年。(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、到達目標で示した三点の理解を目指します。  
講義では、学生による報告、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

第1回 ガイダンス  
第2回～14回 上記テキストの各章の輪読  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30% 発表・報告内容 40% レポート提出等 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部において経営組織論の講義を履修していると理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

## キーワード /Keywords

# 情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 情報管理の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

情報管理基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義ではデータを管理、分析する手法について学ぶ。データ管理ではデータベースソフトを用いたデータの効率的な管理方法、利用手法について学ぶ。データ分析では表計算ソフト、統計ソフトを利用して経済、経営データの統計、多変量分析手法について学ぶ。講義と実習を併用し、講義で学んだ後、実習によって理解度を深めることとする。具体的テーマとしてはデータの管理と各種指標計算、統計的仮説検定、回帰分析、イベントスタディ手法などを取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

最初の講義で指示。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
- 第2回：表計算ソフト ( EXCEL ) の利用
- 第3回：表計算ソフトを使った統計分析
- 第4回：データと度数分布確率変数と確率分布
- 第5回：ランダムサンプリング
- 第6回：検定
- 第7回：2グループの関係、比較
- 第8回：回帰分析
- 第9回：イベントスタディ
- 第10回：ロジットモデル
- 第11回：乱数とシミュレーション
- 第12回：データベースの設計方法、リレーショナルデータベース
- 第13回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第14回：クエリによるデータ抽出
- 第15回：まとめ

受講者の理解度、進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...10% レポート・課題...50% 期末試験...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 情報管理基礎 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

基礎的内容も簡単に話しますが、学部レベルの統計的知識は前提とします。

レポート・課題を多数回提出してもらいます。

USBフラッシュメモリを使いますので持っていない人は準備してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ マクロ経済の専門家として、より高度なマクロ経済理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ より高度なマクロ経済の専門知識を生かして、現実経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

マクロ経済分析基礎（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、伸縮価格モデル（価格や賃金が伸縮的に調整されるモデル）を分析の出発点に据える新古典派マクロ経済学の理論構造、経済成長のメカニズムなどである。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】【LM曲線】【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【デマンドプル・インフレ】【コストプッシュ・インフレ】【スタグフレーション】
- 5回 ケインズ体系と新古典派体系の比較：概観
- 6回 新古典派マクロ経済学（1） 【労働供給】【均衡賃金】
- 7回 新古典派マクロ経済学（2） 【自然失業率仮説】【財政政策】
- 8回 新古典派マクロ経済学（3） 【貨幣需要】【貨幣の中立性】【貨幣的景気循環】
- 9回 新古典派マクロ経済学（4） 【2期間モデル】【完全予見】
- 10回 新古典派マクロ経済学（5） 【実物的景気循環】【労働供給の分割不可能性】
- 11回 新古典派マクロ経済学（6） 【ニューケインジアン】【価格硬直性】
- 12回 新古典派成長理論（1） 【潜在的GDP】【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 新古典派成長理論（2） 【新古典派成長理論】
- 14回 新古典派成長理論（3） 【収束】【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（3回） 30% 期末試験 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# マクロ経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ ミクロ経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1)：【独占】、【価格差別】
- 3回 不完全競争の経済分析(2)：【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3)：【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4)：まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1)：【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2)：【逆選択】【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3)：【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4)：まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1)：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2)：【非協力ゲーム】【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3)：【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4)：【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30% レポートもしくはテスト 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

# ミクロ経済学 【昼】

## キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

# 財政学Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政と租税の理解に必要なより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財政と租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財政と租税のより高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本では、2014年4月より消費税率が引き上げられ、消費税収は所得税収を上回る可能性が高い。経済のグローバル化は、各国の租税政策に大きな影響を与えており、このような所得税の地位低下は日本に限るものではない。この授業では、重要性を増す消費課税について、その理論的論拠とされる支出税の理論と思想を検討するとともに、最適課税論に基づく税制の包括的提案書であるマーリーズ報告を概観し、現代税制の将来展望を考察する。

## 教科書 /Textbooks

宮本憲一・鶴田廣日編著『現代租税の理論と思想』有斐閣 2014年2月発行予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

宮島洋『租税論の展開と日本の税制』日本評論社 1986年 ¥3,680  
 八田達夫『消費税はやはりいらぬ』東洋経済新報社 1994年 ¥1,836  
 宮本憲一・鶴田廣日編著『所得税の理論と思想』税務経理協会 2001年 ¥3,564

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、消費課税について
- 第2回 支出税の理論と思想について概論
- 第3回 現代支出税論の源流(ホップズ・ミル・ピグー)
- 第4回 アーヴィング・フィッシャーの『支出税』の特徴と意義
- 第5回 カルドア『総合消費税』の理論と特徴
- 第6回 ウィリアム・ヴィックリーの支出税論
- 第7回 カーター報告の現代的意義
- 第8回 アンドリュースによる『現代的支出税』構想
- 第9回 ミード報告とイギリス型支出税
- 第10回 アメリカの消費ベース課税思想
- 第11回 古典的支出税論と現代的支出税論まとめ
- 第12回 経済活動のグローバル化と法人課税(マーリーズ・レビュー)
- 第13回 現代付加価値税の論理と課題(マーリーズ・レビュー)
- 第14回 課税ベースの選択と現代租税論の課題
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 財政学II 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。

なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

## キーワード /Keywords

財政 租税

## 金融論【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 金融の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 金融に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

金融論

## 授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

## 教科書 /Textbooks

とくになし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の金融市場
- 3回 家計の金融活動
- 4回 企業の金融活動
- 5回 情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
- 6回 情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
- 7回 金融仲介機関の存在理由
- 8回 地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
- 9回 地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
- 10回 銀行経営とガバナンス【BIS規制】
- 11回 銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融资計画】
- 13回 郵政民営化【経営形態とその問題点】
- 14回 証券化と金融市場
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・30%、ディスカッションへの貢献・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 金融論 【昼】

キーワード /Keywords

## 国際金融論 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 国際金融システムの枠組みと運動法則に関する専門的な知識を身につけ、国際金融の諸現象を深く洞察し、それらの原因と影響を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際金融関係の文献資料や情報・データを収集し、内容を適切に分析・加工・利用することができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国際金融に関する知識を常に求め、国際金融システムが直面する諸課題に対して、分析と思索と提言を行う態度を身につけることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実質為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する(100%)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 国際金融論 【昼】

キーワード /Keywords

## 産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法を理解、運用し、経済問題の解決に貢献できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際的な学術雑誌を詳細に読むことを通じて、先行研究の情報を有益に利用できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、分析・理解し、改善案を提案できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

産業組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

構造型推定のベースとなっている離散選択理論について解説を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Kenneth Train. 2009. Discrete Choice with Simulation. 2nd. Cambridge University Press.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：はじめに
- 第2回：properties of discrete choice models
- 第3回：logit model
- 第4回：probit model
- 第5回：generalized extreme value model
- 第6回：mixed logit model
- 第7回：individual-level parameters
- 第8-10回：aggregate data type
- 第11回：numerical maximization
- 第12回：drawing from densities
- 第13回：simulation estimation
- 第14回：EM algorithms
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

統計学、計量経済学、微積分学、線形代数の知識が必要

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 統計学 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計学の幅広い高度な知識を身につけ、応用できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 統計学の推定、検定を利用して、経済・経営分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 統計学を通じて、科学的な思考ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

統計学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

## 到達目標

- ① 統計的推定と検定を理解する。
- ② 正規分布をはじめとする密度関数の性質を理解する。
- ③ 漸近分布の概念を理解する。

## 教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による ( 100% )。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 統計学 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校数学Cの確率統計を既習していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

## 計量経済学【昼】

担当者名  
/Instructor

藤井 敦 / 経済学科

履修年次  
/Year単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

2学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス  
/Class対象入学年度  
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 計量経済学の理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経済の専門家として、必要な情報を収集し、計量経済学的分析を行えるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 経済の問題・現象と数量的な分析を関連付けられるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

実証分析の論文を読み、経済理論をどのようにして実際のデータで分析するのかを学ぶ。理論モデルに合わせた計量モデルの構築、データの収集とその検討、計量モデルの推定と検定、統計分析結果の報告の仕方と解釈、政策的合意の導出までの一定のプロセスを実例を用いて経験することが目的である。余裕があれば、コンピュータを用いた簡単な分析を体験する。

## 教科書 /Textbooks

適宜、実証分析の論文を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトライン、問題の背景→統計モデルの設定→推定・検定→解釈のシンプルな例を紹介
- 2回 回帰分析による実証分析：なぜ回帰分析を用いなければならないのか
- 3回 回帰分析による実証分析：回帰分析からどのような結論を引き出せるか
- 4回 パネルデータによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 5回 パネルデータによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 6回 パネルデータによる実証分析：パネルデータ用モデル特有の統計的推測
- 7回 多項ロジットモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 8回 多項ロジットモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 9回 多項ロジットモデルによる実証分析：多項ロジットモデル特有の統計的推測
- 10回 カウントデータモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 11回 カウントデータモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 12回 カウントデータモデルによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 13回 VARによる実証分析：通常の計量経済学モデルとどこが違うか
- 14回 VARによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 計量経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 労働経済学 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 労働経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。本講義では、1学期の労働経済学研究の延長として、特に組織制度に注目しながら、チームによる仕事や職務と権限の構造などを学ぶ。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための方法を獲得することが目標とする。

## 教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』, エドワード P. ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社内における利害行動【社内競争】
- 第2回 年功型インセンティブ制度【賃金プロファイル】
- 第3回 チーム(1)【チーム】
- 第4回 チーム(2)【チームインセンティブ】
- 第5回 特殊な雇用関係・契約【アウトソーシング】【フランチャイズ】
- 第6回 金銭的インセンティブ【ボーナス】【ペナルティ】
- 第7回 非金銭的インセンティブ【非金銭的報酬】
- 第8回 付加給付【カフェテリア方式】
- 第9回 付加給付【年金給付】
- 第10回 職務と権限【職務権限構造】
- 第11回 評価(1)【人事評価】
- 第12回 評価(2)【評価利用】
- 第13回 労働者の権限強化(1)【意思伝達】
- 第14回 労働者の権限強化(2)【権限強化】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%, レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 労働経済学 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

労働経済学研究を履修済みであることが必要である。  
輪読形式を基本とするため、予めテキストを読んでおくことが必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 環境問題を経済分析するのに必要な高度な専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 環境経済学における経済理論モデルの理解、実証分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 現在直面する環境問題の課題の抽出、解決策の提案ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解できるようになる。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

浅野・中村 『計量経済学』第2版 有斐閣 2009年 ○  
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明と計量経済学について
- 2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
- 3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
- 4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
- 5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
- 6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
- 7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
- 8回 時系列分析2 【単位根】、【共積分】
- 9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
- 10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
- 11回 環境経済学関連の論文の紹介
- 12回 スマートグリッドの経済分析の論文の紹介
- 13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

# 環境経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

応用地域科学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、施策志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的で、しかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深く、しかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

## 教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニック
- 15回 期末レポート発表および討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度、20%：レポート発表、30%：レポートの内容、50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。

# 応用地域科学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 会計学Ⅱ【昼】

担当者名  
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次  
/Year単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

2学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス  
/Class対象入学年度  
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅱではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第14版）』（中央経済社）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上  
3回 同上  
4回 同上  
5回 同上  
6回 同上  
7回 同上  
8回 同上  
9回 同上  
10回 同上  
11回 同上  
12回 同上  
13回 同上  
14回 同上  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 会計学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 財務会計Ⅱ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財務会計に関するより高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

## 教科書 /Textbooks

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくことが望ましい。

# 財務会計II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 管理会計【昼】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 管理会計の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 管理会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 管理会計に関する高度な専門知識を生かして、会計や経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計理論の応用分野の知識を深めることを目的とする。

履修者には、テキストの担当個所についてレジュメを作成の上、パワーポイントで説明をしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

佐藤弘光・齋藤正章『改訂新版 管理会計』放送大学教育振興会

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 管理会計概論 ( 1 )
- 3回 管理会計概論 ( 2 ) 前半
- 4回 管理会計概論 ( 2 ) 後半
- 5回 管理会計概論 ( 3 ) 前半
- 6回 管理会計概論 ( 3 ) 後半
- 7回 資本予算 ( 1 ) 前半
- 8回 資本予算 ( 1 ) 後半
- 9回 資本予算 ( 2 ) 前半
- 10回 資本予算 ( 2 ) 後半
- 11回 株主価値を高める事業戦略 前半
- 12回 株主価値を高める事業戦略 後半
- 13回 株主価値と経営計画 前半
- 14回 株主価値と経営計画 後半
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...61% レポート...39% (全13回×3点)

\* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 管理会計【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルの「管理会計論」と「企業ファイナンス」の知識は習得済みであること。

毎回レポートを課します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 経営学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	企業経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	企業経営に関するより高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本の企業経営について考える。

## 教科書 /Textbooks

「失われた20年」の間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、その原因を探っていく。関連する資料を随時、配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の内容について解説する。  
2回 - 15回 1つ1つの企業を取り上げ、その経営内容について考えていく。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、討議50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 経営戦略論 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営戦略に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経営戦略の策定に寄与する情報の収集・分析手法、戦略計画の立案・評価の手法を身につけることができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的な知識にもとづいて、経営戦略に関わる課題解決に主体的に取り組むことができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営戦略論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。  
到達目標は以下のとおりです。  
・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。  
・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究目的を考慮したうえで、経営戦略論の代表的文献の中から指定します。  
昨年度使用教科書  
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指定。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。  
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。  
また、随時レポートの提出を求めます。  
第1回 ガイダンス  
第2～14回 上記テキスト各章を輪読、および討議。  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。  
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

## キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

## コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化・グローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ コーポレート・ファイナンス理論の観点から、企業経営で生起する諸問題の課題を設定し、それらの問題を分析し、解決策を考えることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

コーポレート・ファイナンス

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、コーポレート・ファイナンスにおける主要なトピックの1つである、コーポレート・ガバナンスに関する文献を輪読し、コーポレート・ガバナンスに関する基礎知識を得ると同時に、近年の研究動向を追うことを目的とします。

## 教科書 /Textbooks

Randall, Morck, A History of Corporate Governance around the World: Family Business Groups to Professional Managers, The University of Chicago Press, 2005

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献(最新の論文も含む)は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 The Global History of Corporate Governance
- 第3回 The Rise and Fall of the Widely Held Firm: A History of Corporate Ownership in Canada
- 第4回 The History of Corporate Ownership in China: State Patronage, Company Legislation, and the Issue of Control
- 第5回 Corporate Ownership in France: The Importance of History
- 第6回 The History of Corporate Ownership and Control in Germany
- 第7回 The Evolution of Concentrated Ownership in India: Broad Patterns and a History of the Indian Software Industry
- 第8回 The History Corporate Ownership in Italy
- 第9～10回 A Frog in well knows Nothing of the Ocean: A History of Corporate Ownership in Japan
- 第11回 Financing and Control in The Netherlands: A Historical Perspective
- 第12回 The History of Politics of Corporate Ownership in Sweden
- 第13回 Spending Less Time with the Family: The Decline of Family Ownership in the United Kingdom
- 第14回 Why Has There Been So little Block Holding in America?
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...50% 授業への貢献度など(報告・発言・レポートなど)...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルの「ミクロ経済学」・「統計学・計量経済学」・「会計学(財務会計・管理会計)」の知識を前提とします。不安がある場合はきちんと復習しておいて下さい。

参加者は毎回報告の義務があります。また、授業中に何も発言しない人(自発的に発言しない人)には単位を与えません。

# コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析できる技能を形成できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的知識を活かし、現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

人的資源管理

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。

扱う領域は学部講義である「人事管理論（人的資源管理論）」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したいと考えています。「人的資源管理研究」では基本的な内容も含めて議論をするのに対して、「人的資源管理演習」においては学術的研究の動向にウエイトを置いた議論を展開したいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

大学院水準の教科書が人的資源管理では少ないため、とくに指定しない。  
ただし、良い本が見つかれば、講義開始時に改めて指定する可能性はある。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

白木三秀(2011)『人的資源管理の基本(第2版)』文眞堂。(2,520円)  
上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。(2,730円)  
奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)  
岩出 博(2007)『Lecture人事労務管理』泉文堂。(4,410円)  
※奥林編(2009)は「人的資源管理研究」の指定教科書である。  
※別途、各回において論文を配布する。

# 人的資源管理 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 4回 職務設計論の研究【分業】【調整】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 雇用管理の研究【終身雇用】【雇用の流動化】
- 7回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 8回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 9回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 10回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、内容は専門的な論文を読む形で進めるため、基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25%（配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いほど多くなることはあらかじめ承されたい。）

中間レポート・・・50%（4,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）

最終レポート・・・25%（4,000字～6,000字を予定）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

（1）事前に配布された論文は必ず読んでくること。

（2）講義は日本語で行なう。

（3）大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。また、「人的資源管理研究」の上位科目に該当するので、当然ながら「人的資源管理研究」の履修を前提とする。ただ、当該科目を履修していないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただ、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。

人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。ただ、上記のとおり人的資源管理の基礎知識は前提として講義を進めるので、それが不安な人は「人的資源管理研究」から受講してほしい。

## キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

## 企業論 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業論の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業論に関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

企業論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近年、盛んに議論されている企業統治（コーポレートガバナンス）論について学習及び研究していく。なかでも、「純粹持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマで研究していく。

1700年代後半、早くもアダム・スミスは、その著『国富論』において、株式会社とは無責任な会社であると警告していた。出資者たる株主および雇われ経営者も会社経営に無頓着であると。その後も、こうした警告・注意は、ある意味で途絶えることはなかった。我が国において戦後、順調にその軌跡を展開した日本企業もバブル崩壊後、大転換・再編を迫られた。同時に、この大転換の中にあつて、出資者・経営者・会社間のバランスを根源的に問題にする企業統治（コーポレートガバナンス）論が盛んとなること自体、当然のことでもあった。

なかでも、1997年に持株会社が解禁され、親会社と子会社との間に新たな関係が展開されている。いわゆる戦略本社としての親会社と経営の現場としての子会社との関係。しかし、子会社の株主は基本的に一人株主たる親会社である。では、この親会社は、子会社が発生せしめたトラブル・問題・企業不祥事等にどのように、対応するのであろうか。ここに、企業統治（コーポレートガバナンス）問題の新たな局面がある。

授業では、こうした持株会社にかかわる企業統治（コーポレートガバナンス）問題を学習・研究していく。

研究テーマに応じた参考文献を担当者が紹介・指示するとともに、受講者が参考文献一覧を作成し、その中から必要な文献を順次講読・検討していく。

## 教科書 /Textbooks

下谷正弘の持株会社に関する文献3冊(人数如何では、こちらから用意します)。  
『持株会社解禁』中公新書、1996年  
『持株会社の時代』有斐閣、2006年  
『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

持株会社に関する文献。  
1、企業論関係～①箱田(他)編『持株会社の実務～第5版～』東洋経済新報社、2007年・②高橋宏幸『戦略的持ち株会社の経営』中央経済社、2007年。  
2、法律関係～①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年・②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年。  
3、各社アニュアルレポート、EDINET

# 企業論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 過去の研究テーマの紹介・説明
- 2回 研究テーマの設定
- 3回 参考文献表の作成
- 4回 論文構成について
- 5回 英語参考文献の紹介と精読
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 第1回プレゼンテーション
- 13回 第2回プレゼンテーション
- 14回 第3回プレゼンテーション
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60% 学習態度(他者の発言に対して質問をする・予習や復習をする) ... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年を学習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習にも時間を費消しましょう。

## キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社・持株会社の機能

## 英語翻訳研究 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の諸分野に関する高度な知識を身に付け、国際社会に役立てる能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 専門的職業人として、英語力を駆使して資料の的確な分析とその発展的研究ができるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 専門的知識を活用して、グローバル社会が抱える課題を主体的に探索・解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語翻訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

## 教科書 /Textbooks

Printed Material:

Visual Material: (News, Speech Scripts)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introductory Lecture
Week 2	Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3	Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4	Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5	Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6	Project Work (I): Relevance-theoretic Approach.
Week 7	Project Work (II): Translation Principles.
Week 8	Project Work (III): Communication Situations
Week 9	Communicative Clues
Week 10	Inter-lingual Interference
Week 11	Direct Translation and Indirect Translation
Week 12	A Unified Account of Translation
Week 13	Research Program: Planning and structuring
Week 14	Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15	Course review

## 英語翻訳研究 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam ( 60% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

## 中国民間文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	現代中国語と方言に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	中国民間文学に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国民間文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国民間文学、伝承、神話に関する口述記録や原書などの講読を通じて、中国民間文学に関する研究方法、調査方法、基礎的な専門知識を習得する。

## 教科書 /Textbooks

『神話と神話学』楊利慧著、北京師範大学出版社、2009年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『古代文化叢書 神話と神話学』大林太良著、大和書房、1994年  
『中国の故事 神々の巻』石田博著、雄山閣、1977年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	民間文学、民間伝承についての概論
第2回	神話と宗教及び文学の関係
第3回	民間文学と社会背景
第4回	民間文学と自然環境
第5回	民間文学の研究手法
第6回	民間伝承の収集方法
第7回	現代の民間伝承と口述
第8回	現代の民間伝承と表現
第9回	現代の民間伝承と表現 事例調査を中心に
第10回	中国少数民族の神話
第11回	中国少数民族神話と現代社会
第12回	中国少数民族神話の口述と信仰
第13回	神話口述者と役割
第14回	神話口述者と役割 事例調査を中心に
第15回	まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表（60%）、授業への積極性（40%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

受講者にはそれぞれ発表課題を指示するので、積極的に取り組んでください。  
疑問が生じたら積極的に質問してください。

# 中国民間文学研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 中国古典文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 中国文学の漢文資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国古典文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業は「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や作品を系統的に読解することを目的とする。更に、中国四大美人として有名な王昭君の実像や日本文学への影響等についてもあわせて研究したい。中国人の王昭君が国境を越えて日本文学に融合していることを学んで欲しい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料はその都度配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『王昭君故事的伝承と嬪変』（張文徳、学林出版社、2008年）  
『歴代歌詠昭君詩詞選注』（魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する下記の歴史記録・文学作品を踏まえた上で、日本文学作品に描かれた王昭君記事についても探求と分析を行う。進捗状況によって前後することもあるが、おおその方向は次の通り。

- 一 はじめに 授業の目的と概容の紹介
- 二 漢書・後漢書
- 三 琴操
- 四 西京雜記
- 五 李白・杜甫・白居易
- 六 唐物語I
- 七 唐物語II
- 八 百詠和歌・漢故事和歌集
- 九 謡曲
- 十 古文真宝
- 十一 唐詩選
- 十二 白氏文集
- 十三 川柳・絵画
- 十四 その他故事
- 十五 まとめ 日本文学における王昭君故事

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 中国古典文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史 日本文学

# 中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
白石 麻保 / 中国学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 中国研究の諸分野について専門的知識を習得し、自らの見解を表明できる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国研究の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 中国に関する諸問題に関心を持ち、広い視野から問題解決の方法を模索し行動することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国の歴史・経済・政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解する。特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじる。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：全教員-授業ガイダンス
- 2回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
- 3回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
- 4回：堀地-歴史資料を読む
- 5回：横山-中国で史料を探すコツ—どこで何を見るのか
- 6回：横山-中国はなぜ一党独裁が続くのか
- 7回：横山-西欧的民主史観と中国的愚民史観
- 8回：白石-中国経済を分析する視点
- 9回：白石-中国経済への分析アプローチ
- 10回：白石-中国経済分析から得られるインプリケーション
- 11回：下野-現代中国をどう見るか、問題の所在
- 12回：下野-資料の探し方
- 13回：下野-資料の読み方
- 14回：全教員-総合討論と学生研究報告①
- 15回：全教員-総合討論と学生研究報告②

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 中国研究概論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

中国近代史 一次資料 中国政治 中国経済 現代中国

## 東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような態度を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。(オムニバス方式 / 全15回)

## 1 田村慶子 / 5回

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

## 2 伊野憲治 / 5回

東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

## 3 篠崎香織 / 5回

植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

## 教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

\* これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。

加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落 (岩波講座東南アジア史第6巻)』岩波書店、2002年。

池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開 (岩波講座東南アジア史 第7巻)』岩波書店、2002年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○白石隆『海の帝国—アジアをどう考えるか』中公新書、2000年。

○ベネディクト・アンダーソン (白石隆・白石さや訳)『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』NTT出版、1997年。

○東南アジア学会監修『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。

○伊野憲治『アウンサンスーチーの思想と行動』アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。

工藤年博編『ミャンマー政治の実像—軍政23年の功罪と新政権のゆくえ』アジア経済研究所、2012年。

# 東南アジア研究概論 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 【田村担当】

- 第1回 教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。  
 第2回 『東南アジア現代政治入門』序章および第一章の輪読と議論  
 第3回 『東南アジア現代政治入門』第二章および第三章の輪読と議論  
 第4回 『東南アジア現代政治入門』第四章および第五章の輪読、議論  
 第5回 『東南アジア現代政治入門』第六章の輪読および議論、まとめの議論

### 【伊野担当】

- 第6回 東南アジア諸国における民主化についてーミャンマーを中心にー（講義）  
 第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（理論に関する邦語論文の輪読）  
 第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（理論に関する英語論文の輪読）  
 第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（ミャンマーに関する邦語文献の輪読）  
 第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（ミャンマーに関する英語文献の輪読）

### 【篠崎担当】

- 第11回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章  
 第12回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章  
 第13回 『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。  
 第14回 『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。  
 第15回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論などの日常の授業への取り組み 70%  
 レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人

# アメリカ社会史概論 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに、政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じることで、アメリカ社会を支えてきた人々の営み考え方、感じ方を受講生にとらえさせる。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示・配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告内容...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

# アメリカ社会史概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカ人種関係概論 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

## 教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.  
 Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.  
 Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.  
 Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1: M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2: D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3: その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
11. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀前半
12. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀後半
13. その他のグループ間関係
14. 21世紀のアメリカの人種関係
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席は単位認定の大前提である。  
 授業中の発言・報告...100%

# アメリカ人種関係概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際関係研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor	大平 剛 / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科											
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class					
対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 国際関係の理論、国際経済、国際政治の基礎について包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する事項について、修得した知識と技術を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際関係研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 マルクス主義 (1) 生成の背景と思想
- 第3回 マルクス主義 (2) 実践と現代における意味
- 第4回 巨視的歴史理論 (1) 従属論
- 第5回 巨視的歴史理論 (2) 世界システム論
- 第6回 リアリズム：覇権安定論
- 第7回 リベラリズム (1) 相互依存論
- 第8回 リベラリズム (2) 国際レゲーム論
- 第9回 コンストラクティビズム：規範の役割
- 第10回 貿易における相互依存
- 第11回 金融における相互依存
- 第12回 経済開発における相互依存
- 第13回 国際統合論 (1) 連邦主義
- 第14回 国際統合論 (2) 交流主義、新機能主義
- 第15回 国際統合論 (3) ガバナンス論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 国際関係研究概論 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

## キーワード /Keywords

## 現代中国政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国政治およびそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国政治およびそれに関連する事項について先行研究を収集することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国政治およびそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代中国政治研究（1学期）で習得した知識を基に、最近の研究動向にも注目しながら中国が抱える政治社会問題および外交関係について検討し、問題発生メカニズムと要因について理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

オリエンテーションで指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 政治体制(1)【イデオロギーと中国社会】
- 3回 政治体制(2)【共産党と中国社会】
- 4回 政治体制(3)【政府と中国社会】
- 5回 政治体制(4)【軍と中国社会】
- 6回 政治体制(5)【中央地方関係】
- 7回 政治体制(6)【その他の政治アクター】
- 8回 中国映画から浮かび上がる中国社会と政治
- 9回 対外関係(1)【1945年以前の日中関係】
- 10回 対外関係(2)【1945～1972年の日中関係】
- 11回 対外関係(3)【1972年以後の日中関係】
- 12回 対外関係(4)【アジアにおける日中関係】
- 13回 文献講読と担当者による報告
- 14回 講評と討論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60% 課題提出物...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

あらかじめ課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（3点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。  
中国・台湾の地図や新聞記事などを活用して理解を深めること。  
現代中国政治研究を履修していることが望ましい。

# 現代中国政治研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 現代韓国経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代の韓国経済を学ぶことによって、東アジア経済発展のダイナミズムと脆さを理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきかを考察してみる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代韓国経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的な問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたかを明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

趙淳 (深川博史監訳/藤川昇悟訳) 『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版局

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で適時指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 「序論」
- 第2回 「1950年代と1960年代の経済発展」
- 第3回 「概観」(1):輸出志向工業化と重化学工業化
- 第4回 「開発5カ年計画：概観」(1)：構造調整と民主化
- 第5回 「産業組織」(1)：大企業と中小企業
- 第6回 「産業組織」(2)：政府の政策
- 第7回 「労働」(1)：韓国の労働事情
- 第8回 「労働」(2)：労働問題と政策的含意
- 第9回 「金融制度」(1)：銀行制度と証券市場
- 第10回 「金融制度」(2)：金融政策と金融改革
- 第11回 「対外貿易」(1)：貿易政策の展開
- 第12回 「対外貿易」(2)：世界経済の中の韓国
- 第13回 「IMF経済危機」
- 第14回 「危機以降の韓国経済」
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 現代韓国経済研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発独裁、財閥、輸出志向工業化、通貨危機、構造改革

## 日本社会史研究【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本の文化が形成される近世社会の歴史に関心を持ち、歴史を社会と生活文化の視点から捉えることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 著書や論文などの文献にとどまらず、実際にくずし字史料を解読して実証的な研究を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 単に一国史の視点にとどまることなく、アジアやヨーロッパと比較する視点を持つことによって世界史の中に位置づけることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

江戸時代の歴史とりわけ文化・思想の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本都市生活史料集成』(学習研究社)
- 『日本庶民生活史料集成』(三一書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 平戸町人別帳① 川崎屋
- 第3回 平戸町人別帳② 高麗人
- 第4回 犯科帳① 抜荷
- 第5回 犯科帳② 遊女
- 第6回 犯科帳③ 欠落
- 第7回 犯科帳④ 博奕
- 第8回 犯科帳⑤ 無宿
- 第9回 博多津要録① 捨て子
- 第10回 博多津要録② 茶屋
- 第11回 博多津要録③ 水主役
- 第12回 博多津要録④ 興業
- 第13回 博多津要録⑤ 寺内
- 第14回 補論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日本社会史研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 近代日本政治外交史研究【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 近代日本政治外交史に加え、広く世界に関する知識を修得している。現代世界が抱える問題について、歴史的な見地から議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 研究テーマに関して、先行研究を踏まえ、草書体史料などの一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 近代日本政治外交史に関する知識を国際社会で実践的に生かすことができる。歴史認識の多様性を理解し、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

近代日本政治外交史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史の研究書を読み進めていきます。毎回分担範囲を決めて、学生諸君に報告していただきます。本講義の狙いは、近代日本政治外交史研究のレベルを理解してもらうことにあります。また、関連する草書体史料の解説も同時に行っていきます。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定しますが、伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』（千倉書房2014年8月刊行、定価未定）などを予定しております。関連史料はこちらでコピーして配布いたします。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○外務省編・刊『日本外交文書竝主要文書』上・下巻(原書房、1965年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第1章1・2の講読(台湾統治と統帥権)
- 3回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第1章3・4・5の講読(行政整理と公式令)
- 4回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第2章1・2の講読(新聞ジャーナリズム)
- 5回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第2章3・4・5の講読(日露講和と対外硬世論)
- 6回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第3章1・2の講読(イギリス的立憲政治)
- 7回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第3章3・4の講読(第一次世界大戦)
- 8回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第3章5・6の講読(宮中と府中)
- 9回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第4章1・2の講読(21カ条要求と日中関係)
- 10回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第4章3・4の講読(政友会と対中強硬論)
- 11回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第4章5・6の講読(国際協調外交と原敬)
- 12回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第5章1・2の講読(高橋是清と経済政策)
- 13回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第5章3・4の講読(山本達雄と経済政策)
- 14回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第6章1・2・3の講読(松田正久と九州派)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

明治期の文語体の文章を読んでおいて下さい。あらかじめ、ある程度テキストに目を通しておいて下さい。

## 近代日本政治外交史研究 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文講読と史料解読を同時に進めてまいります。内容的にややハードですが、がんばって参りましょう。

## キーワード /Keywords

## 東南アジア近現代史研究 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代世界とのつながりのなかで、東南アジア近現代史を理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として応用することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア近現代史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジア島嶼部における近代から現代への移行を、国家のあり方の変遷に注目してとらえる。それによって、様々な事象が国民国家によって規定される今日の社会のあり方をとらえる視点を養う。具体的には、19世紀から20世紀半ばにかけて展開した植民地国家の形成・発展、人の大量越境、脱植民地化と国民国家形成などを扱う。受講者による基本文献の輪読と報告・討論を中心に授業を進める。

## 教科書 /Textbooks

Butcher, John G. and Howard Dick. Eds. 1993. The Rise and Fall of Revenue Farming : Business Elites and the Emergence of the Modern State in Southeast Asia, St. Martin's Press, New York.  
Ariffin Omar, 1993. Bangsa Melayu: Malay Concept of Democracy and Community 1945-1950, Oxford University Press, Kuala Lumpur.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に別途指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 理論的位置づけ
- 3回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 概論
- 4回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 事例(1) イギリス領マラヤ
- 5回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 事例(2) オランダ領東インド
- 6回 The Rise and Fall of Revenue Farming : まとめ
- 7回 Bangsa Melayu : 理論的位置づけ
- 8回 Bangsa Melayu : 植民地期のマラヤ
- 9回 Bangsa Melayu : 植民地期の東スマトラ
- 10回 Bangsa Melayu : マラヤの脱植民地化
- 11回 Bangsa Melayu : 東スマトラの脱植民地化~インドネシアへ
- 12回 Bangsa Melayu : 「民主主義」の導入
- 13回 Bangsa Melayu : 共同体とアイデンティティ
- 14回 Bangsa Melayu : まとめ
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 東南アジア近現代史研究 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

基本的にテキストに沿って進める。東南アジアについて基礎的な知識がない受講者は、学部（国際関係学科）で開講している東南アジア研究概論、東南アジアの社会と歴史、東南アジアの政治と外交などを受講のうえ本科目を受講するか、あるいはこれらの科目を本科目と並行して受講すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東南アジア地域研究I 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代国際社会における地域研究的アプローチの重要性を認識し、自ら運用できる知見と能力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観できる能力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 各研究テーマに即して、研究と実践との相関関係を把握する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究 I

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：地域研究の起源【起源】
- 第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
- 第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
- 第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
- 第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
- 第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
- 第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
- 第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
- 第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
- 第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
- 第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%  
報告内容50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 東南アジア地域研究I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究

# 東南アジア地域研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東南アジア地域の近現代史、独立後の政治や社会の変容に関する基礎的な知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 広く先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような行動力を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究II

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：  
 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。  
 Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年  
 \* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。  
 \* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回 『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
- 第3回 『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
- 第4回 『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
- 第5回 『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
- 第6回 アジア政治の課題について議論する
- 第7回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
- 第8回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
- 第9回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
- 第10回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
- 第11回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
- 第12回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
- 第13回 華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
- 第15回 補足とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

## 東南アジア地域研究II 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。  
アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことがない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

# アメリカ社会史研究 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を深める。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を深める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代アメリカ社会の始まりは、19世紀末～20世紀初頭の革新主義時代であるとされる。本授業においては、革新主義時代のアメリカ社会形成を中心に、現代アメリカ史に関する基本文献を読み、アメリカ社会をよりよく理解する端緒とする。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示・配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 都市の時代：1893年シカゴ万博と都市の拡大
- 3回 都市の時代：ハル・ハウスと移民の生活
- 4回 都市の時代：ハル・ハウスと貧困・階級
- 5回 労働争議の時代：プルマン・ストライキと労働問題
- 6回 労働争議の時代：労働組合と労働問題
- 7回 労働争議の時代：フォーディズムと労働問題
- 8回 大衆消費の時代：郊外化とアメリカ文化
- 9回 大衆消費の時代：都市化とアメリカ文化
- 10回 大恐慌の時代：不況と政治
- 11回 大恐慌の時代：不況と家族・家庭
- 12回 大恐慌の時代：不況と労働運動
- 13回 冷戦の時代：冷戦と反共主義
- 14回 冷戦の時代：冷戦と家族・家庭
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの参考文献を積極的に読むことを薦める。

# アメリカ社会史研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカ人種関係研究 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得し、それに基づいて、現代世界が抱える問題について専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

## 教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.  
 David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].  
 David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.  
 Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 優生学の登場
3. 「新移民」と人種
4. ホワイト・エスニックとは
5. 反ユダヤ主義の系譜
6. 戦争と人種問題 1：アフリカ系アメリカ人
7. 戦争と人種問題 2：ホロコーストの記憶と反省
8. 戦争と人種問題 3：日系人と強制収容
9. 公民権運動をめぐる議論 1：1950年代
10. 公民権運動をめぐる議論 2：1960年代前半
11. 公民権運動をめぐる議論 3：1960年代後半
12. ポスト公民権運動期の人種関係
13. 文化多元主義と多文化主義
14. 今日のアメリカの人種関係とその展望
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席は単位認定の大前提である。  
 授業中の発言・報告...100%

# アメリカ人種関係研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際経済研究 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。グローバル社会が抱える諸問題を経済学の視点から理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 経済学の分析手法を身につけ、国際経済の現実問題に応用して議論を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能を生かし、国際的な視野に立って物事を考える。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、不完全競争市場下の貿易政策の経済分析を学習する。その分析ツールを用いて、国際経済の分析に応用できることを期待している。

到達目標は以下の通りである。

- ① 不完全競争の市場構造を理解できる。
- ② 貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
- ③ 現実の貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

## 教科書 /Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』(MIT Press)  
和訳：大山道広訳『現代の貿易政策』(東洋経済新報社)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』(東京大学出版社)  
柳川範之著『戦略的貿易政策』(有斐閣)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策と市場支配力【戦略的效果】【生産効率】
- 3回 完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
- 4回 完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
- 5回 保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
- 6回 保護と国内市場支配力II【国内寡占】
- 7回 外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
- 8回 外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
- 9回 外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
- 10回 戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
- 11回 戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
- 12回 戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
- 13回 貿易政策調査発表I
- 14回 貿易政策調査発表II
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出・発表 70 %

# 国際経済研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 国際機構研究 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際機構の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際機構に関する先行研究を踏まえ、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際機構をめぐる実践的な問題に関心を持ち、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際機構研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

国際機構に関する理解を深めるために、その目的、制度、機能、課題等を研究する。

## 教科書 /Textbooks

Clive Archer, International Organizations, third edition, Routledge, 2001.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの講読と報告を通じて、国際機構の現代的展開を概観および考察する。

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキスト第1章【国際機構の定義】
- 第3回 テキスト第1章【国際機構の歴史】
- 第4回 テキスト第2章【加盟】
- 第5回 テキスト第2章【国際機構の目的と構造】
- 第6回 テキスト第3章【国際機構の役割】
- 第7回 テキスト第3章【国際機構の機能】
- 第8回 テキスト第3章【グローバル・ガバナンス】
- 第9回 テキスト第4章【リアリズム】
- 第10回 テキスト第4章【修正主義】
- 第11回 テキスト第4章【ラディカルズ】
- 第12回 テキスト第4章【国際機構の文献】
- 第13回 テキスト第5章【国際機構の展望】
- 第14回 テキスト第5章【国際機構の改革】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加の状況... 50% 報告... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

国際機構に関する入門書・専門書を事前に購読しておくこと。

# 国際機構研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生各自が、興味を持っているマクロ経済学関連の文献（本や論文など）を選択し、それを報告してもらう。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告に関しては、徹底した準備を要求する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、ミクロ経済分析の論理と方法について必要な基礎知識を習得する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時間中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2～4回 興味・関心のあるミクロ経済問題について調査報告
- 5～6回 ミクロ経済分析的アプローチ論究
- 7～13回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告
- 14回 現代ミクロ経済学の展開
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30 % レポート 70 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学についての基礎知識を十分に修得しておくこと。

## キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。前期の本科目では統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison Wesley.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：教科書は経済分析のテーマごとに1章を割り当てている。そこで、章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に教科書を読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講者の関心・能力に指導者の関心・能力を加味し、修士論文につながる研究テーマを見つける。

## 教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
いくつかの文献を報告してもらい、それを手がかりに研究テーマを絞り込んでいく。  
毎回の文献輪読を基本とする。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず予習をすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
- ②現在の経済問題を理解し、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

## 教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス  
2回～15回  
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30% ディスカッションへの貢献 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマ確定に向けて、先行研究の内容報告、参考文献一覧の作成、修士論文の目次作成などを行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 先行研究・参考文献の講読。レジュメによる学生の発表形式で行う。
- 11回 正しい引用の仕方・参考文献表の作り方を説明する。
- 12回～15回 修士論文のテーマ、目次、参考文献一覧を作成する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：  
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

学生が自身の研究テーマのために必要とする計量経済モデルについて、各自学習し、発表を行う。これを通じて、計量経済分析のイメージを自身のテーマと関連して持つことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

適宜、資料および実証分析の論文を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Greene (2008), *Econometric Analysis*, Pearson Education.  
 GeNii(<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>、学術研究検索サイト)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本となる統計学・計量経済学についてやや詳しく扱う資料を輪読する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 資料の中から各自ひとつずつ話題を選んで発表。
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 関心のある先行研究論文を1本ずつ選び、内容の報告。前回までで学んだモデルがどのように用いられているかを中心に報告する。
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

上記のGeNiiを用いて、各自の関心のある研究分野について先行研究を検索しておく。

# 特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学—理論と実践』 勁草書房 2005年○  
 岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○  
 環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 ( 25% )、発表 ( 25% )、期末試験 ( 50% )

# 特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に資する基礎的な知識を得るとともに、受講生による更なる問題意識の顕在化に努め、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、その都度紹介。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度、20%：期末のレポート、80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

# 特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

概して、現代の財務会計上の重要な課題というのは、個々の資産の特性の相違や経済的環境の著しい変化も顧みず、「価値」と「コスト」に大幅な乖離がみられる資産に対しても、伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）を一律に適用しようとしているところから生じているように思われる。そのことが、企業の経済的実態（経済的現実）の忠実な表現（描写）を阻害する極めて大きな要因になっているのである。現代の財務会計の主要な論点のひとつは、こうした伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）による歪んだ像を、より現実的な写像を提供できるように、可能な限り修復しようとする一連の試みであるといえるのかもしれない。常にこうした問題意識を持ちながら、特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第14版）』（中央経済社）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松章編『現代の財務経営（6）経営分析・企業評価』（中央経済社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を主要テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待したい。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追従するあまり、会計学の古典を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

## 教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回  
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジюмеを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考論文、インターネットなどで学習しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

無

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

無

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2~15回 修論指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合を総合的に評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法を経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み込み、報告をしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス  
 第2回～第15回：文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

## キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

## 特別研究基礎 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

持株会社についての研究。  
下谷正弘の持株会社に関する研究を題材にして、今やブームになっている持株会社の機能について検討していく。

## 教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、下谷正弘の持株会社に関する文献。
  - ①『持株会社解禁』中公新書、1996年
  - ②『持株会社の時代』有斐閣、2006年
  - ③『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年
- 2、法律関係の文献
  - ①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年
  - ②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持株会社の設立1
- 2回 持株会社の設立2
- 3回 持株会社の設立3
- 4回 持株会社と機関1
- 5回 持株会社と機関2
- 6回 持株会社と機関3
- 7回 持株会社と機関4
- 8回 株主権の縮減1
- 9回 株主権の縮減2
- 10回 株主権の縮減3
- 11回 持株会社の株主の保護1
- 12回 持株会社の株主の保護2
- 13回 持株会社の株主の保護3
- 14回 持株会社とガバナンス1
- 15回 持株会社とガバナンス2とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60%、 学習態度(授業参加態度) ... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

下谷の持株会社に関する文献(『持株会社解禁』中公新書・『持株会社の時代』有斐閣、2006年・『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年)を、少なくとも一冊は読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

持株会社の機能・持株会社とガバナンス

## 特別研究 1 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生各自が興味を持っているマクロ経済学関連の文献（本や論文など）を選択し、それを報告してもらう。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告に関しては、徹底した準備を要求する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成し報告する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 3～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

## キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。本科目では経済学と統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison Wesley.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：教科書は経済分析のテーマごとに1章を割り当てている。そこで、章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に教科書を読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究テーマに関連する主要文献を徹底して読込み、理論的考察のための枠組みを構築する。

## 教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

受講者の文献報告にしたがって精読の方法、思考のまとめ方などについて指導していく。  
文献輪読と受講者の研究報告を中心に進めていく。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習はもちろんのこと、授業を通じて自らの研究体制を固めてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための準備をする。

## 教科書 /Textbooks

とくになし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 各自の研究テーマに沿った論文を読み報告する。
- 15回 まとめとしてレポートを作成する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の内容の発表、先行研究の報告、修士論文に盛り込むデータと図表の作成を行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 修士論文の内容、とりわけ、本文に相当する部分を学生が執筆・発表し、指導する。
- 11回～13回 修士論文に盛り込むデータ・図表を学生が作成・発表し、指導する。
- 14回～15回 修士論文の問題の設定と予想される結論について、学生が発表し、指導する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：  
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

計量経済モデルを現実のデータにあてはめてひとつの統計分析結果を得るには、考慮すべき様々な問題が存在する。これらについて、参加者同士の議論を通じて経験していく。修士論文相当のイントロダクションの青写真を作ることが目的である。

## 教科書 /Textbooks

用いない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Greene (2008), *Econometric Analysis*, Pearson Education.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教員による研究論文をサンプルとして提示：「なぜ、何を、どのように分析するか」を考えながら作業することを学ぶ。併せて、研究遂行上の困難とその解決方法の事例を学ぶ。
- 2回 どんな問題に興味があるか、先行研究論文数本を選び、自身の興味の背景とともに内容を報告。
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 先行研究で用いられている計量経済学的な分析手法を報告。それを自分の興味対象に応用するにはどのようなデータが必要で、どのようなデータが利用可能かを報告。
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 データの利用可能性を前提にして、計量経済モデルの組み合わせ・修正を検討する。
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

興味のある先行研究を探しておくこと。

# 特別研究 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解できるようになる。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

浅野・中村 『計量経済学』第2版 有斐閣 2009年 ○  
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明と計量経済学について
- 2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
- 3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
- 4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
- 5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
- 6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
- 7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
- 8回 時系列分析2 【単位根】、【共積分】
- 9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
- 10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
- 11回 環境経済学関連の論文の紹介
- 12回 スマートグリッドの経済分析の論文の紹介
- 13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 ( 25% )、発表 ( 25% )、期末試験 ( 50% )

# 特別研究 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体的対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、その都度紹介。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をととして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度と進捗、20%：期末のレポート、80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

# 特別研究 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名  
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

概して、現代の財務会計上の重要な課題というのは、個々の資産の特性の相違や経済的環境の著しい変化も顧みず、「価値」と「コスト」に大幅な乖離がみられる資産に対しても、伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）を一律に適用しようとしているところから生じているように思われる。そのことが、企業の経済的実態（経済的現実）の忠実な表現（描写）を阻害する極めて大きな要因になっているのである。現代の財務会計の主要な論点のひとつは、こうした伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）による歪んだ像を、より現実的な写像を提供できるように、可能な限り修復しようとする一連の試みであるといえるのかもしれない。常にこうした問題意識を持ちながら、特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。

## 教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第14版）』（中央経済社）、醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

小松章『現代の財務経営（6）経営分析・企業評価』（中央経済社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を主要テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待したい。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 特別研究 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追従するあまり、会計学の古典を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

## 教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○  
西澤健次『負債認識論』国元書房○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回  
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジユメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考論文、インターネットなどで学習しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

無

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

無

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2~15回 修論指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合を総合的に評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法を経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み込み、報告をしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス  
第2回～第15回：文献報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派アプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

随時指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

## キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

# 特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

持株会社についての研究。

## 教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

下谷正弘の持株会社に関する文献。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持株会社の設立1
- 2回 持株会社の設立2 ( 具体例1 )
- 3回 持株会社の設立3 ( 具体例2 )
- 4回 持株会社と機関1
- 5回 持株会社と機関2
- 6回 持株会社と機関3
- 7回 持株会社と機関4
- 8回 株主権の縮減1
- 9回 株主権の縮減2
- 10回 株主権の縮減3
- 11回 持株会社の株主の保護1 ( 株主代表訴訟 )
- 12回 持株会社の株主の保護2 ( 株主代表訴訟 )
- 13回 持株会社の株主の保護3 ( 株主代表訴訟 )
- 14回 持株会社とガバナンス1
- 15回 持株会社とガバナンス2とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60%、 学習態度 ( 授業参加態度 ) ... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

下谷の持株会社に関する文献を、少なくとも一冊は読んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【昼】

## キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社の解禁

# 社会心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 社会の諸問題にかかわる社会心理学の専門知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間関係に係わる諸課題を社会心理学的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間関係に係わる諸課題に対して社会心理学の観点から対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会心理学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

社会心理学の研究法の主な特徴を理解した上で、社会心理学の理論が他の複数の学問分野にどのように関連するかを理解し、説明できるようになることが到達目標である。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介する。

# 社会心理学 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半（7, 8回程度）の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節（参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる）の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半（7, 8回程度）は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする。受講者が8名以下であれば、1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また、受講者各自の研究テーマの発表を交えながら、様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学，教育学，社会学，人類学等との関連
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 %    議論への参加等 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生涯学習論【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 生涯にわたる学習の特性や理論について専門的知識を修得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 学習者の課題発見・解決プロセスを理解・分析する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 学習者の課題発見・解決プロセスを支援・促進する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

生涯学習論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。  
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房
- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- その他、学会年報や紀要など

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答・・・70%、レポート・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 生涯学習論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 臨床心理学に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を臨床心理学の観点から調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題に臨床心理学の観点から解決策を提案できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床心理学

## 授業の概要 /Course Description

E.Eriksonの漸成理論を拠り所にして、乳児期から老年期までの生涯発達を通じて、各発達段階における不適応の諸特徴、ならびに発達課題と不適応との関連を理解すると同時に、各発達段階に応じた臨床心理学的援助のあり方について考究する。その際、治療現場での臨床事例を取りあげ、その治療プロセスを詳細に検討することで、理論的・実践的な理解を深めていくこととする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。プリントを配布する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 松島恭子(編)『ライフサイクルの心理療法』創元社
- 『臨床心理学体系3 ライフサイクル』金子書房
- 下山晴彦・丹野義彦(編)『講座 臨床心理学5 発達臨床心理学』東京大学出版会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本科目の概要と進め方
- 第2回～第4回 乳幼児期の不適応と臨床心理学的援助
- 第5回～第7回 児童期の不適応と臨床心理学的援助
- 第8回～第10回 青年期の不適応と臨床心理学的援助
- 第11回～第13回 中年期・老年期の不適応と臨床心理学的援助
- 第14回～第15回 ライフサイクルと不適応(これまでの内容をもとに全体討論を実施)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 ... 10% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表者はレジユメを作成すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会福祉援助論 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	人間の生活困難に関して調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

社会福祉援助論

## 授業の概要 /Course Description

「社会福祉援助の実践と研究の視角」  
社会福祉援助の（ないしは社会福祉援助に近接する）領域において、援助現場から汲み取ることのできる研究上の課題や、または社会福祉援助のあり方をめぐる研究課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、研究対象・方法を明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

適時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～5回 社会福祉援助の動向を、子ども、高齢者、障がい者、低所得・貧困者層の各領域で俯瞰する  
第6～10回 社会福祉援助の課題に関する検討をおこなう  
第11、12回 社会福祉援助の方法に関する報告と討論  
第13～15回 社会福祉援助に関する研究論文の意味と位置を検討する

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

徹底して文献講読を行うので、そのための時間の確保に努めてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 児童福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 児童家庭福祉の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 児童家庭福祉に関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 児童家庭福祉に関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

児童福祉論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。児童福祉の理念としての子どもの権利条約を踏まえた子ども支援の方策について考察する。日本の子どもの現状だけではなく、世界の子どもの目を向け、今世界で何が起きているのか、子どもを取り巻く環境としての国や社会の在り方について考察する。スウェーデンの学校や児童家庭福祉サービス等について、視聴覚教材や文献を用いて紹介する。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて提示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 子どものニーズと社会システム 【ヒューマンニーズの階層】
- 3回 子どもの成長・発達 【発達課題】 【発達観】 【ソーシャルスキル】
- 4回 子どもを理解する視点
- 5回 関係性に生きる存在、主体的存在としての子どもの事例
- 6回 歴史的、社会的存在としての子どもの事例
- 7回 子どもの歴史 【児童観の変遷】 【近代家族と子育て】 【母性神話】
- 8回 子どもの権利条約と児童福祉の理念 【国連子どもの権利委員会の勧告】 【子どもの意見表明権】
- 9回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 10回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 11回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 12回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 13回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 14回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50%、レポート・発表50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 児童福祉論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の発表も予定していますので、授業中に指示された事柄についての自主的学習とレポートの作成が必要になります。

キーワード /Keywords

## 人間環境学【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

人間環境学

## 授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、歴史時代を通して変化しており、文明は環境の変遷に伴って生まれ消滅してきました。環境変遷と、文明の盛衰との関連を考えることは、現代の環境問題の解決、ひいては文明の行く末を見きわめる手がかりともなると考えられます。本演習では、環境変遷と文明の関連について、特に日本人の日本列島への渡来と環境の関係について考えます。

この科目の主な到達目標は以下のとおりです。  
人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。  
人間と文化の環境との関わりに関する諸問題を調査・分析できる。

## 教科書 /Textbooks

「日本人はるかな旅 1～5」(NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 NHK出版)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○「環境と倫理 自然と人間の共生を求めて」(加藤尚武編 有斐閣 1890円)  
「人類史のなかの定住革命」(西田正規著 講談社 950円)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールを進めることになります。  
テキストを読んで発表・討論し、併せて同一タイトルで出版されているDVDも視聴します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% 発表の内容 ... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表の担当でない回でもテキストを読んでおいてください。また、新聞など目を通し、関連する記事があれば読んでおくことより理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 人間環境学 【夜】

キーワード /Keywords

# 文化社会学【夜】

担当者名 /Instructor 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	文化と人間関係の関連について理解するための専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	文化と人間関係の関わりを見定め調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	文化と人間関係の関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

文化社会学

## 授業の概要 /Course Description

文化研究をめざす者と地域研究をめざすもの両方の研究、学習に役立つような授業をめざす。現代文化の特徴、特にポストモダン文化の特徴の解説に力点を置く。

## 教科書 /Textbooks

受講生と話し合った後に指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と話し合った後に指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジユメにて報告  
 司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う。テーマは以下の通り。

- 1回目 後期近代について
- 2回目 Z・バウマン論
- 3回目 J・ヤング論
- 4回目 A・ギデンズ論
- 5回目 リスク社会について
- 6回目 ポストモダニズムの文化についての理論
- 7回目 ポストモダニズムの文学
- 8回目 ポストモダニズムの哲学
- 9回目 ポストモダニズムの映画
- 10回目 ポストモダニズムの絵画
- 11回目 ポストモダニズムの音楽
- 12回目 F・ジェイムソンとポストモダニズム
- 13回目 観光文化とポストモダニズム
- 14回目 ディズニー化論
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20% レジユメ 30%、レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 文化社会学 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズの領域に興味があり、かつある程度の知識があること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ポストモダニズム、現代アート、カルチュラルスタディーズ、文化、言語、

# 都市社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 都市社会と人間との関わりについて理解するための理論的な枠組みを学習し、都市の社会的分析に関する専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 都市社会と人間との関わりについて調査・分析する基礎的技能を習得する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 都市社会と人間との関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。  
 具体的には、以下の事柄について理解する。  
 ( 1 ) 産業化と都市化の関係  
 ( 2 ) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方  
 ( 3 ) さまざまな社会現象における「都市的なもの」の意味  
 ( 4 ) 都市計画の課題と可能性  
 ( 5 ) 都市における社会現象を把握する技法  
 なお、授業は演習形式も交えて行う。

## 教科書 /Textbooks

『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ( レポート ) ... 70% 参加・貢献度... 30%

# 都市社会学 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。  
文献について報告してもらうので、( 1 ) 概要、( 2 ) 内容要約、( 3 ) 論点整理、( 4 ) 議論を記したレジユメの用意が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集会的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

# 教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 教育の制度に関する理論的な枠組みを学習、専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

教育制度論

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。  
 授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。  
 後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

### 目標

- ①教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。
- ②教育の制度に係わる諸課題について、調査・分析できる。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
 資料は初回に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

# 教育制度論 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的な理解を持っている。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	様々な課題を抱える子ども・青年の抱える課題を分析しつつ、その援助を行っていくための基本的な技能を修得している。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	子ども・青年に対して人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく意欲と態度を持っている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

臨床教育学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、今日子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 児童期の発達障害の事例
- 3回 事例検討 その2 思春期の発達障害の事例
- 4回 事例検討 その3 学生の発達障害の事例
- 5回 事例検討 その4 被虐待児の事例
- 6回 事例検討 その5 虐待サバイバーの方の事例
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 参加者の研究計画の検討
- 14回 参加者の研究計画の検討
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%、期末レポート50%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 臨床教育学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 福祉コミュニティ論【夜】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△	福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

福祉コミュニティ論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会情勢の変化は、家族や地域社会の関係性に影響を及ぼし、虐待や孤立死の問題など全国的に顕在化している。東日本大震災がもたらしたコミュニティへの影響も看過できない。これらの課題を、コミュニティ再生の視点から検証し、目指すべき「福祉コミュニティ」について考える。

また、北九州市における「福祉コミュニティ」形成の実践を中心としながら、住民活動と政策動向の両面から理解を深め、今後の「福祉コミュニティ」形成に向けた手法、理念について考察したい。

到達目標は、以下のとおり。

- ・ コミュニティの意味、機能を理解し、「福祉コミュニティ」形成に向けた自らの役割が判断できるようになる。
- ・ 住民活動や政策に関する理解を深め、自らの活動領域における関わりを明確にする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない（必要に応じてプリント）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「福祉コミュニティ形成の研究 新版」大学教育出版  
 「北九州市発21世紀の地域づくり」中央法規出版  
 「誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する」ミネルヴァ書房  
 「地域を拓いた人たち」北九州市社会福祉協議会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

第 1 回～第 3 回 現代社会とコミュニティ【コミュニティ】【福祉コミュニティ】【超高齢社会】【地域組織】

第 4 回～第 6 回 福祉コミュニティの課題【個人と家族】【孤立】【コミュニティケア】【住民参加】【災害時要援護者】

第 7 回 福祉コミュニティの理論【地域福祉】【ソーシャルインクルージョン】【住民自治】

第 8 回～第 10 回 北九州市の福祉コミュニティづくり【コミュニティワーク】【ネットワーク】

第 11 回～第 12 回 福祉コミュニティ事例研究【当事者組織化】【まちづくり】【権利擁護】【介護予防】

第 13 回 福祉コミュニティ形成の技術【ニーズ把握】【啓発】【福祉教育】【地域福祉計画】

第 14 回～第 15 回 福祉コミュニティ形成の課題【エンパワメント】【地域包括システム】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・平常点... 30% 期末試験(レポート)... 70%

# 福祉コミュニティ論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講にあたっては、自分の住む町や北九州市の住民活動、行政の保健福祉、コミュニティ施策の状況をできるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 高齢社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	高齢社会の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	高齢社会における人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	高齢社会における人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

高齢社会論

## 授業の概要 /Course Description

人口構成の高齢化が進展し、2050年頃には40%近い高齢化率に達すると推計されている。この間に、75歳以上人口や85歳以上人口の増加が見込まれている。このような高度高齢社会への人口転換がもたらす社会的影響について、心理・社会的な視点から講義を進める予定。これにより高度高齢社会への移行期に生起する心理・社会的課題について理解することができる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方
- 第2回 人口構造の高齢化の推移と要因
- 第3回 人口ボーナスと人口オーナス
- 第4回 高齢者の社会的適応と社会理論(心理学的視点から)
- 第5回 高齢者の社会的適応と社会理論(社会学的視点から)
- 第6回 高齢者の心理・社会的課題(認知機能の変化)
- 第7回 高齢者の心理・社会的課題(文化的位置づけとアイデンティティ)
- 第8回 高齢者のQOLの課題
- 第9回 高齢者の家族関係(介護、認知症、虐待等)
- 第10回 近隣の社会関係の課題
- 第11回 高齢者の介護・福祉・医療の制度的側面(介護保険制度、後期高齢者医療制度)
- 第12回 社会保障の財政的課題
- 第13回 高齢化に伴う労働力の課題
- 第14回 人口高齢化に伴う地域的政策課題(社会参加、社会的支援等)
- 第15回 まとめ(高齢化の長所、短所など)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40%、講義への参加(報告等)60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

# 高齢社会論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 司法福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 非行や犯罪と社会および福祉の関係性に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 司法福祉に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 司法福祉と福祉制度・実務に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

司法福祉論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」( ミネルヴァ書房 2013年 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。  
基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## フィールドワーク論 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	諸文化の相対性と、人類の生物学的普遍性に関する最新の研究をリファアーする。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査を遂行できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと展開する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

フィールドワーク論

## 授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

## 教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用のおそれと分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【応用】
- 第6講 調査課題の提出
- 第7講 調査計画の検討
- 第8講 データの収集と類型化
- 第9講 データの分析と考察
- 第10講 先行研究とのすりあわせ
- 第11講 他の調査方法との組み合わせ
- 第12講 研究成果に関するディスカッション
- 第13講 研究成果に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション 70%  
レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# フィールドワーク論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。  
実際の調査データを収集する

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

フィールドワーク  
社会調査

# 環境社会学【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する専門知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析ができる。	○ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する調査・分析ができる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する問題や対策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま（山）」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

## 教科書 /Textbooks

- 筒井迪夫「森林文化への道」
  - 北村昌美「森林と日本人」
- その他、各自の関心テーマにあわせて選択する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2回 森林文化に関わる研究史について
- 3回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 4回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 5回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 6回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 7回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 8回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 9回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 10回 新しい森林文化の研究について
- 11回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 12回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 13回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 14回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加含む)...50% 事前調査と発表内容...50%

# 環境社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森林（山林）、林業、山村（農村、村）等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

キーワード /Keywords

## イギリス文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に必要な高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく、詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

## 教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 ( Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
- 2回目 ( Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
- 3回目 ( Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
- 4回目 ( Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
- 5回目 ( Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
- 6回目 ( 木原 ) W. B. Yeats: Introduction
- 7回目 ( 木原 ) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
- 8回目 ( 木原 ) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
- 9回目 ( 木原 ) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
- 10回目 ( 木原 ) W. B. Yeatsと能
- 11回目 ( 田部井 ) 導入： D.H.Lawrence 全般について  
( イギリス小説全般の中の異端児として：階級、性、ジェンダー、エコロジー )
- 12回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 1 )
- 13回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 2 )
- 14回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 3 )
- 15回目 ( 田部井 ) "The Man Who Loved Islands" を読む ( 4 ) まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が3分の1ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## イギリス文学研究概論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## アメリカ文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科  
スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
  - 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
  - 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
  - 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社
- 必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 エドガー・アラン・ポー
- 3回 ホーソー
- 4回 メルヴィル
- 5回 ホイットマン
- 6回 トウエイ
- 7回 ジェイムズ
- 8回 ドライサー
- 9回 アンダソン
- 10回 フィッツジェラルド
- 11回 ヘミングウェイ
- 12回 フォークナー
- 13回 スタインベック
- 14回 リチャード・ライト
- 15回 アーサー・ミラー

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性を否定できません。

# アメリカ文学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 英語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種・英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の具体例を紹介しながら基本的理論を解説し、受講生の英語学研究分野に関する理解を深めることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』英宝社。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 英語学とは
- 3回 英語史(1) 英語の誕生
- 4回 英語史(2) 近代英語
- 5回 英語史(3) 新大陸の英語
- 6回 社会言語学(1) 英語の地域的変種
- 7回 社会言語学(2) 英語の言語接触
- 8回 社会言語学(3) 英語の社会的変種 I
- 9回 社会言語学(4) 英語の社会的変種 II
- 10回 英語音声学(1) 母音
- 11回 英語音声学(2) 子音
- 12回 音韻論
- 13回 協調の原理とポライトネス
- 14回 英語の習得
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「事実上の国際共通語」の地位を得て久しい英語ですが、それゆえにグローバル化が進むのにあわせ、この言語に習熟することが前にもまして重要になってきています。何らかの形で英語と関わる分野の研究を深めようとする皆さんは、たとえ直接英語教育に携わる立場に立たなくとも、英語学習者の方々の助言を行なうなど、さまざまな形で間接的に英語教育にかかわることとなります。

この授業では、タスクを中心とした学習法の研究を行なっているクレイグ・ランバート先生と、おもに通訳教育を専門としている伊藤健一の2名の教員がそれぞれの得意とする領域についてお話しし、皆さんと意見交換をしながら学びを深めていきたいと思えます。第2回から第9回までをランバート先生が、第1回と第10回以降を伊藤が担当します。なお、一部メニューが重複しますが、復習として、また異なる見解に触れる機会として考えていただければ幸いです。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業ではプリントなどを用い、皆さんの学習の便宜を図ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：英語を取りまく世界の状況
- 第02回 Types of Language Knowledge
- 第03回 Approaches to Language Teaching
- 第04回 Discourse Demands
- 第05回 Task Sequencing
- 第06回 Lesson Planning
- 第07回 Teaching Methods
- 第08回 Learner Motivation
- 第09回 Evaluating Learners Performance
- 第10回 言語習得理論と学習法
- 第11回 リーディングの指導
- 第12回 リスニング・スピーキングの指導
- 第13回 文法・作文の指導
- 第14回 教材と授業運営
- 第15回 通訳教育からの提言

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い50% + 学期末レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 英語教育法研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 英語表現法【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

## 教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)  
 Lesson 2: The origins & development of the English language  
 Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)  
 Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)  
 Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)  
 Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)  
 Lesson 7: Review #1 (units 1-7)  
 Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)  
 Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)  
 Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)  
 Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)  
 Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)  
 Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)  
 Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)  
 Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

# 英語表現法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## イギリス文化研究 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国々間の文化、考え方を交換するための架け橋となる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

## 教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare  
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules  
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage  
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society  
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education  
Class 6: Politics and the Play  
Class 7: Gender and the Play  
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts  
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures  
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender  
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power  
Class 12: Review  
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance  
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?  
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

## イギリス文化研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Required preparation will be discussed during the first class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

## 教科書 /Textbooks

*Adventures of Huckleberry Finn* Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4  
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1-4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5-8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9-12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13-16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17-23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24-27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28-31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32-35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36-40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何を読者に伝えようとしての結果なのか。
- 12回 41-43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

## アメリカ文学研究 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を事前に読んでおくこと。  
また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。  
発表の担当となっている場合は、指示に従ってレジユメを作成しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## アメリカ文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	アメリカの文化に関する高度な知識を身に付ける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバル社会の諸課題に主体的に向きあえるようになる。	
			アメリカ文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

1960年代のミュージカル映画と演劇について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1920年代～1950年代
- 3回 時代背景
- 4回 『ウエストサイド物語』
- 5回 『マイ・フェア・レディ』
- 6回 『サウンド・オブ・ミュージック』
- 7回 「イギリス人の侵入」
- 8回 ザ・ビートルズ
- 9回 ロック・ミュージカル
- 10回 アフロ・アメリカンの音楽
- 11回 「人種のサラダ」
- 12回 「寛容な社会」
- 13回 ポプ・フォッシー
- 14回 アンドリュー・ロイド＝ウェーバー男爵
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 発表...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

# アメリカ文化研究 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。  
演習室はコロシウム。

## キーワード /Keywords

【ミュージカル演劇】 【時代との関連】 【作品の種類】

## 社会言語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 社会言語学に関する知識を持ち研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 社会言語学の知識を持つ専門的職業人として資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 社会言語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		社会言語学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

## 教科書 /Textbooks

Meyerhoff, Miriam. (2011). *Introducing Sociolinguistics*, 2nd ed. Oxon: Routledge.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学について
- 2回 Introduction
- 3回 Variation and language
- 4回 Variation and style
- 5回 Language attitudes
- 6回 Being polite as a variable in speech
- 7回 Multilingualism and language choice
- 8回 Real time and apparent time
- 9回 Social class
- 10回 Social networks and communities of practice
- 11回 Gender
- 12回 Language contact
- 13回 学生による研究報告(1)
- 14回 学生による研究報告(2)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 社会言語学研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 中国語法研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈できる能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	積極的に言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から研究課題を取り込んで、実践する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語法研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修論の研究方向に関する文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、修論の展開を試みる。

## 教科書 /Textbooks

資料を配付する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 文法研究概説 文法研究の対象 文法研究の方法
2. 構造主義と中国語文法研究
3. 認知文法と中国語文法研究
4. 「配価（結合価）文法」と中国語文法研究
5. 語義特徴分析理論と中国語文法研究
6. 格文法と中国語文法研究
7. 生成文法理論と中国語文法研究
8. 機能文法・第二言語教育と中国語文法研究
9. 語用論と中国語文法研究
10. これまでの重要な研究（問題別の観点・著作・論文）
11. 現代中国語文法研究における重要課題
12. 中国の有名な文法研究者及びその観点と論述
13. 日本の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
14. 海外の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 中国語法研究概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

基礎を固めた上視野を広め、修論を作成するための授業なので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。また常に各課の内容に合わせて、「中国語学」「中国語文」「世界漢語教学」などの学術誌を参考するよう要求する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のバイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『呐喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西文学・思想の受容について
- 第10回 イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし。

# 中国文化研究概論 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

## 中国思想文化研究概論【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国思想文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国思想文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国古代思想史全般について、幾つかの教科書を講読することによって、中国思想史の基本知識を学び、中国文化の源流を理解する。

## 教科書 /Textbooks

○小島祐馬著『中国思想史』 創文社2000年（必要に応じてコピーして配る）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○胡適著『中国古代哲学史大綱(上)』商務印書館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	序説
第2回	中国古代の社会状態
第3回	孔子
第4回	孟子
第5回	子思子
第6回	荀子
第7回	墨子
第8回	農家
第9回	老子
第10回	莊子
第11回	列子・楊子
第12回	法家
第13回	易・五行
第14回	春秋
第15回	まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の予習状況20%、受講準備30%、レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 中国思想文化研究概論 【夜】

キーワード /Keywords

## 中国哲学史研究【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国哲学史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国哲学史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国中古の思想史を勉強することによって、中国思想史研究の基礎を築き、中国文化のルーツに対する理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

○『中国思想史の流れ』（上、両漢・六朝） 橋本高勝編 晃洋書房

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

胡適著『中国中古思想史長編』（関連部分をコピーして配布）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説
- 第2回 賈誼
- 第3回 劉安
- 第4回 董仲舒
- 第5回 司馬遷
- 第6回 揚雄
- 第7回 王充
- 第8回 王符
- 第9回 何休
- 第10回 黃老
- 第11回 孔融
- 第12回 仲長統
- 第13回 何晏
- 第14回 王弼
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平時の予習状況50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 中国哲学史研究【夜】

キーワード /Keywords

## 中国語教授法研究【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上、説得力のある教育法を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を取り込んで、自分なりの講義ポイントを積み重ねる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国語教授法研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本語母語者に中国語を教授する方法を研究する。

## 教科書 /Textbooks

1. 日中両国の代表的な中国語教科書抜粋のコピー
2. 第二言語教育理論に関する論述のコピー
3. 中国語検定試験・HSK試験問題

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 第二言語教育視点による中日両言語の比較
2. テキストの種類
3. テキストの編成
4. 練習問題の作成
5. 誤用対策
6. 評価体系と形式
7. シラバスの設定
8. 発音の比較・教育重点
9. 文字の比較・教育重点
10. 語彙の比較・教育重点
11. 文法の比較・教育重点1：品詞
12. 文法の比較・教育重点2：語順
13. 文法の比較・教育重点3：文型
14. 表現の比較・教育重点
15. 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 中国語教授法研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 中国文化史研究【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国語の中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 中文の中国語理解に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 中国語理解に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国語理解

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新劇や時事新劇の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時代の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢と中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 中国文化史研究【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

## 中国語教育論研究【夜】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国語教育に関する必要な専門知識を身につける。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語教育を論じるに必要な研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で中国語教育の問題を解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語教育論研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

第二言語習得（SLA）の理論研究に関する文献を講読し、それらの理論に基づいた英語や日本語教育における実践研究を参考に、中国語教育の問題を考える。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 小柳かおる スリーエーネットワーク 2004  
『第2言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』 村野井 仁 大修館書店 2006

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第二言語習得研究の意義  
第2回 第二言語習得の理論・モデル(1)  
生得的アプローチ  
第3回 第二言語習得の理論・モデル(2)：相互交流的アプローチ  
第4回 第二言語習得の理論・モデル(3)：認知的アプローチ  
第5回 第二言語習得の理論・モデル(4)：新しい認知的アプローチ  
第6回 第二言語習得に関わる要因(1)：認知的要因(1)  
第7回 第二言語習得に関わる要因(1)：認知的要因(2)  
第8回 第二言語習得に関わる要因(2)：情意的要因(1)  
第9回 第二言語習得に関わる要因(2)：情意的要因(2)  
第10回 第二言語習得に関わる要因(3)：社会文化的要因(1)  
第11回 第二言語習得に関わる要因(3)：社会文化的要因(2)  
第12回 第二言語習得研究から見た効果的な外国語教授法(1)  
第13回 第二言語習得研究から見た効果的な外国語教授法(2)  
第14回 中国、日本、アメリカにおける中国語教育  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習およびレジュメ（PPT）の作成が必要。

# 中国語教育論研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

FLA、SLA

## 比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科  
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本とヨーロッパとの比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、アメリカ、イギリス、フランスと日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。

## 教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan
- 4回 Value Patterns in the United States and Japan
- 5回 Discussions and Presentations led by students based on the contents of materials from this course
- 6回 Island Nations (Britain and Japan)
- 7回 The British Monarchy compared with the Japanese royal family
- 8回 The British Education system compared with Japan
- 9回 The Arts
- 10回 Regions
- 11回 ミュージアムから見る日本とフランス
- 12回 現代美術から見る日本とフランス
- 13回 映画から見る日本とフランス
- 14回 文学から見る日本とフランス
- 15回 写真から見る日本とフランス

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 60% Final paper 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

# 比較文化研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 日本文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本文化に関する総合的知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本文化の諸領域の研究方法について習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本文化の諸領域について、3名の教員が各5回授業を実施する。

1～5回

グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の5回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

6～10回

東洋日本美術史分野から主に平安仏画・絵巻・北宋山水画を中心に取り上げて、専門知識と基本的研究方法の確認を行う。平安仏画の回では美術史の王道である様式史に基づく研究方法について、絵巻を中心とした回では異時同図法という描き方について、北宋山水画を中心とした回では三遠之法とは何か、そして、その南宋絵画や日本絵画への影響について確認する。

11～15回

日本宗教史に関する主要なテーマを取り上げ、基礎知識と研究方法について学んでもらう。神道の成立、神仏習合、最澄、空海、中世神道思想について、代表的研究業績を踏まえつつ、理解を深めてもらいたい。受講者に分担して発表し、全員で議論するという形式で進めていく。

## 教科書 /Textbooks

1～5回 使用しない。

6～10回 毎回レジュメを配布する。

11～15回 使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

# 日本文化研究概論 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：近現代を研究すること、大衆文化を研究することの意義
- 2回 大衆文化研究史①
- 3回 大衆文化研究史②
- 4回 大衆文化研究史③
- 5回 大衆文化研究史④
- 6回 平安仏画-照暈・截金
- 7回 平安仏画-具色・着衣文様
- 8回 異時同図法-仏伝図・絵巻
- 9回 異時同図法-絵巻
- 10回 宋代山水画-三遠之法
- 11回 神道の成立
- 12回 神仏習合
- 13回 平安仏教(最澄)
- 14回 平安仏教(空海)
- 15回 中世神道思想

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100% ( ( 東洋日本美術史分野は確認小テストを行う ) )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

- 1～5回  
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。積極的な発言が求められる。
- 6～15回  
特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

メディア 都市 生活 平安仏画 異時同図法 三遠之法 神道 神仏習合 平安仏教

## 言語学研究概論【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西 宏信 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 身に付けた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

言語学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定  
その他プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。
- 『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』 福井直樹著、筑摩書房、2012年。
- シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、朝倉書店。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法（漆原・葛西）
- 第2回 音韻：音声、音素、異音（漆原）
- 第3回 音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント（漆原）
- 第4回 同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音（漆原）
- 第5回 派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ（漆原）
- 第6回 複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性（漆原）
- 第7回 複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造（漆原）
- 第8回 複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞（漆原）
- 第9回 文の構造：句構造、c統御、支配（葛西）
- 第10回 移動現象(1)：格、A移動、主要部移動（葛西）
- 第11回 移動現象(2)：A-bar移動、島の制約（葛西）
- 第12回 言語間変異：原理とパラメータ（葛西）
- 第13回 語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト（葛西）
- 第14回 文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞（葛西）
- 第15回 発話行為：協調の原理、関連性理論（葛西）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 35% 期末レポート 65%

# 言語学研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 比較文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立つ能力を修得する。	◎ 文学、思想、文化に対する高度な知識を得て、比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つ能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 文学的資料を適切に分析し、比較文学において高度な研究ができる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題が解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この講義は大学院生にふさわしい比較文学に関する知識と価値観を学生に提供するもので、比較文学の研究史 ( Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など) を踏まえて、影響研究、ジャンル研究、比較研究、翻訳研究、翻案研究などの実例を紹介し、研究方法を教える予定である。又、文学批評と関連する項目であるジェンダー、パラリテラチャー、ポストコロニアリズムに関しても視野に入れて授業を進める方針である。

この講義の到達目標は以下の通りである。

- ・ 比較文学研究に関する高度な知識を得ることで、国際社会・地域社会に役立つ能力を修得する。
- ・ 文学的資料の分析を通して、高度な比較文学研究ができる。
- ・ 比較文学の知識を、グローバル社会における課題解決に応用できる。

## 教科書 /Textbooks

インターネット資料、プリントを必要に応じて配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 比較文学研究概論【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学とは何か？（基本的問題提起）（岩本）
- 第2回 比較文学とは何か？（Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など）（岩本）
- 第3回 比較研究（フランス学派：文学作品の二項関係の影響研究）（岩本）
- 第4回 ジャンル研究（物語、詩、戯曲）（ストラック）
- 第5回 比較研究（アメリカ学派：文学と絵画、文学と映画などの対比研究）（ストラック）
- 第6回 文学批評の諸姿勢（ストラック）
- 第7回 ジェンダーと語り直し（ストラック）
- 第8回 受容と変容（岩本）
- 第9回 比較文学における翻訳研究（岩本）
- 第10回 翻案研究（岩本）
- 第11回 普遍性と文化の差異（岩本）
- 第12回 ポストコロニアリズム（ストラック）
- 第13回 パラリテラチャー（ストラック）
- 第14回 越境する文学（ストラック）
- 第15回 まとめ（岩本・ストラック）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 課題：20% 期末試験：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業準備のために文学作品を事前に読むことが必要な場合がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

文学、比較文学、Weltliteratur、ジャンル、翻訳、翻案、ポストコロニアリズム、文学理論、パラリテラチャー

## 日本宗教文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門的知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他地域の宗教文化と比較して研究課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本宗教文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

『扶桑略記』の講読。

仏教関係記事を中心とする編年体歴史書である『扶桑略記』から巻廿三「醍醐天皇 上」以降の記事を受講者が分担して輪読する。日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版）  
その他は授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回授業の進め方
- 2 回『扶桑略記』と古記録の読み方について
- 3 回『扶桑略記』輪読
- 4 回『扶桑略記』輪読
- 5 回『扶桑略記』輪読
- 6 回『扶桑略記』輪読
- 7 回『扶桑略記』輪読
- 8 回『扶桑略記』輪読
- 9 回『扶桑略記』輪読
- 1 0 回『扶桑略記』輪読
- 1 1 回『扶桑略記』輪読
- 1 2 回『扶桑略記』輪読
- 1 3 回『扶桑略記』輪読
- 1 4 回『扶桑略記』輪読
- 1 5 回『扶桑略記』輪読

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 日本宗教文化研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『扶桑略記』 仏教 神道

## 日本表象文化研究【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本の表象文化についての専門的知識を獲得し理解する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本の表象文化についての専門的な分析方法を習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本の表象文化についての課題を設定し、主体的に解決する態度を身につけている。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			日本表象文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

前半では日本の大衆文化に関する研究書を取りあげて、その講読をおこなう。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読
- 第3回 テキスト講読
- 第4回 テキスト講読
- 第5回 テキスト講読
- 第6回 テキスト講読
- 第7回 テキスト講読
- 第8回 テキスト講読
- 第9回 テーマ発表
- 第10回 テーマ発表
- 第11回 テーマ発表
- 第12回 テーマ発表
- 第13回 テーマ発表
- 第14回 テーマ発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20%、講読発表・テーマ発表・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 日本表象文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 比較広域文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較広域文学研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△ 比較広域文学に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較広域文学研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較広域文学研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

当演習においては、様々な名文献を考察し、その文献に潜んでいる隠喩的思想性を追求していきます。多数の文化に見られるメタファーを分析することを通して、異文化間における概念や思想の差異に関する理解を深めます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回コース紹介
- 第2回 『美学』 ( アリストテレス )
- 第3回 『詩学』 ( アリストテレス )
- 第4回 『論語』 ( 孔子 )
- 第5回 「山上の垂訓」 ( イエス )
- 第6回 『万葉集』
- 第7回 「方丈記」
- 第8回 シェイクスピア ( 「ソネット」 )
- 第9回 ジョン・ダン
- 第10回 小林一茶
- 第11回 アメリカの「独立宣言」
- 第12回 ニーチェ
- 第13回 キップリング
- 第14回 M.L.キング
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：50% 態度：10%

## 比較広域文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to read the weeks assignment and come to class prepared to analyze and discuss the work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## ヨーロッパ比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	△	日本とヨーロッパ文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ヨーロッパ比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

ロラン・バルト著『明るい部屋』を中心とする写真に関する文献を通じて、日本とヨーロッパの文化比較を行う。

## 教科書 /Textbooks

プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ロラン・バルト著『明るい部屋』花輪光訳、みすず書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 「写真」の特殊性
- 第3回 分類しがたい「写真」
- 第4回 出発点としての感動
- 第5回 「撮影者」、「幻像」、「観客」
- 第6回 撮影する人
- 第7回 「観客」---その無秩序な好み
- 第8回 冒険としての「写真」
- 第9回 鷹揚な現象学
- 第10回 二重性
- 第11回 「ストゥディウム」と「プンクトウム」
- 第12回 「ストゥディウム」
- 第13回 知らせること
- 第14回 描くこと
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%とレポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# ヨーロッパ比較文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 日英比較文化研究【夜】

担当者名  
/Instructor

フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次  
/Year単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

2学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス  
/Class対象入学年度  
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日英比較文化研究に関する高度な知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日英比較文化に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		日英比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

## 教科書 /Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

In consultation with the instructor.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction  
Week 2: Music  
Week 3: Fashion  
Week 4: Media  
Week 5: Food and Drink  
Week 6: The Monarchy  
Week 7: The Monarchy  
Week 8: Politics  
Week 9: Multicultural Britain  
Week 10: Multicultural Britain  
Week 11: Education  
Week 12: Education  
Week 13: The Arts  
Week 14: Language  
Week 15: Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%  
Report 30%  
Presentation and Discussion 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日英比較文化研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 形態論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語の形態およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 身に付けた専門知識を生かし、言語の形態と実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		理論言語学研究 (形態論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

## 教科書 /Textbooks

学生の興味・関心・レベルに応じて決定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 10%  
発表 40%  
期末レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献（特に英語文献）の予習を行うこと。

# 理論言語学研究 ( 形態論 ) 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 東北アジア研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 日本列島および朝鮮半島を一つの地域として捉え、その文化および経済の課題を、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国家間の問題として捉えられがちな日本および朝鮮・韓国の関係を思想・文化・地域経済といった異なった視点から分析することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 一国の利益と利害にとらわれることなく、広く国際的な地域社会における協力関係の利点と恩恵を考えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東北アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、日本列島とそれに接する朝鮮半島という北東アジア地域の歴史・文化・経済の研究について、日本・韓国の二国間とそれを越えた社会の視点から基礎的な研究方法をオムニバスで紹介します。具体的には、江戸時代の国際関係と日朝関係（担当者八百5回）、東アジアの思想史における朝鮮と日本の思想比較（担当者金5回）、経済発展過程における日韓両国の比較と両国間の経済関係（担当者尹5回）をリレ一方式でそれぞれ4～5回行う予定です。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 村井章介『中世倭人伝』(岩波書店、1993)
- 上垣外憲一『雨森芳洲-元禄享保の国際人-』(中央公論社、1989)
- 小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』(藤原書店、2012)
- 小倉紀蔵『創造する東アジア』(春秋社、2011)
- 野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』(慶應義塾大学出版会、2001)
- 野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』(慶應義塾大学出版会、2004)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1～5回の概論...「環東シナ海域社会」と東アジアの日朝関係
- 第2回 冊封体制と豊臣政権の朝鮮認識
- 第3回 対馬と宗氏...通信使と倭館
- 第4回 江戸時代の朝鮮観...『江閑筆談』と『交隣堤醒』
- 第5回 ここまでの「まとめ」...近代国家と領域概念の形成
- 第6回 第6～10回の概説と「日韓文化・人間関係の比較」
- 第7回 韓国人のしくみ、韓国の朱子学・哲学
- 第8回 朱子学化する日本近代
- 第9回 日本と朝鮮の文化・文明論的自己認識
- 第10回 ここまでのまとめ
- 第11回 第11～15回の概論
- 第12回 経済発展での日韓比較
- 第13回 日韓両国間の貿易・投資の展開
- 第14回 環黄海地域をめぐる経済交流
- 第15回 ここまでのまとめ

## 東北アジア研究概論 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)...90% 授業態度...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカ社会概論 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会理解に必要な基礎的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する基礎的な力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる基礎的な力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のB・オバマ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

## 教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治 新版』(有斐閣アルマ 2010年)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 20世紀後半における保守主義政治【保守主義】
- 第3回 レーガン政権のイデオロギー【保守主義】
- 第4回 クリントン政権の歴史的位相【ニューデモクラット】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ社会概論 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アメリカ 政治

## イギリス地域概論 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ イギリスに関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究および一次資料の収集・整理ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。現代イギリス文化を構成している諸要因を通時的・共時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

## 教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 異文化理解の方法(歴史認識をめぐって)
- 3回 異文化理解の方法論(資料読解の方法)
- 4回 異文化理解の方法論(多文化主義の変遷)
- 5回 イギリス文化の状況(1970年代まで)
- 6回 イギリス文化の状況(1980年代以降)
- 7回 文化研究の方法論的変遷(1960年代まで)
- 8回 文化研究の方法論的変遷(1970年代)
- 9回 言語論的展開
- 10回 サッチャー主義とイギリス社会
- 11回 スコットランドの文化と現状
- 12回 ウェールズの文化と現状
- 13回 北アイルランド紛争の背景
- 14回 21世紀イギリス社会の展望
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解してから授業に臨むこと。

# イギリス地域概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 近代中国政治史研究 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国近代の政治史理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 歴史研究に必要な史料収集、操作の技能を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 日中関係の理解と交流に生かすことができる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

近代中国政治史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近代中国に貫かれる政治的特徴を検討する。とくに中華民国時期（1912年～49年）を中心に、革命と戦争、国民国家建設の課題と挫折の歴史を検証する。孫文、袁世凱、陳独秀、胡適、蒋介石などの人物研究が中心。人物研究を通して、中国における革命と連続性の本質を政治史の観点から理解することを達成目標とする。

## 教科書 /Textbooks

- 横山宏章『中華民国』中央公論社新書
- 横山宏章『中華民国史』三一書房
- 横山宏章『孫文と袁世凱』岩波書店
- 横山宏章『陳独秀の時代』慶應義塾大学出版会
- 横山宏章『中国の異民族支配』集英社
- 横山宏章『素顔の孫文』

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 横山宏章『中華思想と現代中国』集英社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回は二回分180分 講義と討論の演習方式
- 1回 中華民国とは何か
  - 2回 【賢人支配の善政主義】の立場から論ずる
  - 3回 辛亥革命と「排満」
  - 4回 【中華と夷狄】の概念を論証する
  - 5回 孫文の「三序」構想
  - 6回 孫文の【愚民史観】を検証
  - 7回 袁世凱と強国の建設
  - 8回 共和体制における集権政治のあり方を見る
  - 9回 陳独秀、胡適の「新文化運動」
  - 10回 中国における【デモクラシーとサイエンス】を検証
  - 11回 蒋介石の国民国家建設構想と反蒋介石運動
  - 12回 統治のあり方としての【以党治国】論
  - 13回 中華民国と「自由」
  - 14回 中国近代における自由の系譜
  - 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 討論とレポート
- 討論80% レポート20%

## 近代中国政治史研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

拙著を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国社会史研究【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国社会の歴史について専門知識を習得し、自らの見解を表明することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国社会史の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国社会の歴史に関する専門知識に基づいて、中国の社会問題を歴史的に理解し、問題解決の方法を模索することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

中国社会史研究

## 授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史の変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

## 教科書 /Textbooks

- ・ 上田信『海と帝国』（講談社、2005年）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』（清文堂、2005年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ（総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告（60％）・討論（40％）で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

# 中国社会史研究【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

# 現代中国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国、及び途上国、新興国（地域）経済理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国、及び途上国、新興国（地域）経済に対する政策提言を可能にする実証的分析・研究が行える。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	習得した知識や技能を適切かつ有意義に生かすこと、研究に対する誠実な姿勢、的確な視点を持つ。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献, Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル, 中文文献, 邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い, 報告・ディスカッションを行う。

## 教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
  - 2回 テキスト輪読、ディスカッション 分析視点と手法(1) 経済開発 制度
  - 3回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(2) 制度 SNA
  - 4回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(3) 企業
  - 5回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(4) 農業
  - 6回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(5) 経済成長
  - 7回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(1) 理論モデル、実証モデル
  - 8回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(2) 実証モデル、データの扱い方
  - 9回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(3) データの扱い方、記述統計
  - 10回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(4) 記述統計、数量分析
  - 11回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(5) 数量分析
  - 12回 テキスト輪読、ディスカッション 含意・評価(1) 中国経済への提言
  - 13回 テキスト輪読、ディスカッション 含意・評価(2) 他経済への提言
  - 14回 テキスト輪読、ディスカッション 含意・評価(3) 研究上の意義
  - 15回 まとめ
- \* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション, ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60%      ディスカッションへの参加状況・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 現代中国経済研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東アジア政治思想研究【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本、中国、朝鮮・韓国の伝統と近代の政治思想史を読み直し、東アジア三国の思想や文化に関する様々な専門知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を生かせるよう実践的な問題や課題に関心をもち、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治思想研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本近代の政治思想史を「朱子学化」という視点から読み直す。それを通して、今日と将来の日本と東アジアを構想する。

## 教科書 /Textbooks

小倉紀蔵著『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）5500円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』（九州大学出版会、2004）
- 李暁東『近代中国の立憲思想』（法政大学出版会、2005）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要紹介
- 2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 3回 第2章 【儒教】【主体】
- 4回 第3章 【理】【論理】
- 5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 7回 第6章 【こころ】【ニヒリズム】
- 8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 11回 第11章 【丸山真男】【朱学学的半身】
- 12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
- 13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学生の報告 30% レポート 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

# 東アジア政治思想研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカ社会研究 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会理解に必要な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカの社会文化を分析した古典的名著であるL・ハーツの『アメリカ自由主義の伝統』を輪読する。19世紀前半にアメリカを旅したトクヴィルが観察したように、アメリカでは社会革命を経ずして生まれた社会に特有の精神風土が開花することになった。その風土をアメリカが世界大国になった20世紀中期の現実を踏まえて、あらためて考察しなおしたのがハーツの著作である。この演習では、21世紀アメリカの社会的現実を紹介しながら、ハーツの議論の今日的有効性とその限界を考えていく。その上で、参加者自体のアメリカ観の養成をはかる。

## 教科書 /Textbooks

Louis Hartz with an introduction by Tom Wicker, The Liberal Tradition in America: An Interpretation of American Political Thought since the Revolution (San Diego, CA: Harcourt Brace & Company, 1991)[ 有賀貞訳 『アメリカ自由主義の伝統』 ( 講談社学術文庫 1994年 ) ]

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 アメリカにおけるJ・ロック 【自由主義】
- 第3回 トクヴィルとハーツ 【政治参加】
- 第4回 革新主義史学への挑戦者としてのハーツ 【革新主義】
- 第5回 アメリカにおける階級 【社会主義】
- 第6回 アメリカ革命への視座 【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義とアメリカ 【共和主義】
- 第8回 ジャクソン期の「民主主義」 【ジャクソン期】
- 第9回 南部政治の特殊性 【南部】 【奴隷制】
- 第10回 南北戦争と南北のイデオロギー対立 【南北戦争】
- 第11回 再建期の思想動向 【再建期】
- 第12回 革新主義を支えたもの 【社会主義】 【キリスト教】
- 第13回 ニューディールの実験主義 【ニューディール】
- 第14回 ハーツと1950年代の自由主義政治 【冷戦】
- 第15回 『アメリカ自由主義の伝統』の今日性 【21世紀】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# アメリカ社会研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# イギリス地域研究 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ イギリスに関する専門的な知識を修得し、それに基づいて高度な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究を的確に整理し、一次資料に基づく議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能に基づき、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺的な地域に関する文献を読み、続いてイギリス社会を総合的に取り扱った歴史的な著作を中心に議論を展開する。

## 教科書 /Textbooks

- S. Bassnett, Studying British Culture
- J. Harris, Private Lives Public Spirit
- E・H・カー『歴史とは何か』
- 成瀬治『近代市民社会の成立』
- B・アンダーソン『想像の共同体』

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 地域・文化研究の方法論
- 3回 スコットランドの再定義
- 4回 カムリカウェールズか
- 5回 北アイルランド研究の現状
- 6回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8回 イギリス人の「生と死」
- 9回 イギリスの家族構造
- 10回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11回 イギリス社会における労働
- 12回 イギリス社会における宗教
- 13回 社会と国家
- 14回 社会と社会理論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容・・・100%

## イギリス地域研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを正確に読んでから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 北欧地域研究 【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 北欧地域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 北欧地域の研究に必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 北欧地域について修得した知識・技能を国際社会で生かす。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

北欧地域研究

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を輪読することを通して学ぶことを目指す。受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を学びつつ、他のヨーロッパ諸国との相違や国際社会における役割について考察することを旨とする予定である。

## 教科書 /Textbooks

Scandinavian Political Studies や Cooperation and Conflict などの北欧諸国で発行されている英文学術雑誌や、北欧諸国の政治に関する英語の書籍を輪読する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業時に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国における政治の基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による指定文献の発表(1)【国内政治】
- 4回 学生による指定文献の発表(2)【EUとの関係】
- 5回 学生による指定文献の発表(3)【対外政策】
- 6回 学生による指定文献の発表(4)【安全保障】
- 7回 学生による指定文献の発表(5)【国際協力】
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1)【序章】
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2)【1章】
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3)【2章】
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4)【3章】
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5)【結論】
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 北欧地域研究 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

指定文献を授業前に読んでおくことが必要となる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 国際協力研究 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際協力に関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際協力に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際協力に関して修得した知識と技能を生かして、広い視野に立って適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際協力研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この講義では紛争後の国家建設に焦点を当てる。とりわけリベラル・ピース理論との関係について考察を深め、現状と課題の把握に努める。

## 教科書 /Textbooks

Roger Mac Ginty and Oliver Richmond eds., The Liberal Peace and Post-War Reconstruction, New York: Routledge, 2009.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション - 紛争後復興とリベラル・ピース理論の関係について
- 第2回 Chap. 1
- 第3回 ディスカッション
- 第4回 Chap. 2
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 Chap. 3
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 Chap. 4
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 Chap. 5
- 第11回 ディスカッション
- 第12回 Chap. 6
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 Chap. 7
- 第15回 ディスカッション、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・30% 授業への貢献度(議論への参加)・・・40% レポート・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 国際協力研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 安全保障研究 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際関係における安全保障上の問題について知識を習得し、それに基づいて、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 安全保障に関する先行研究を収集し的確に整理することができる。一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 安全保障に関する具体的、実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

安全保障研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

## 教科書 /Textbooks

未定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、特に古典講読の場合、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が必要不可欠になる。

## 安全保障研究 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジュメを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

## 第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本程度読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分、質疑応答をしてもらう。

例えば、Larry May et.al., eds., *The Morality of War*, Pearson Princeton Hall, 2005, および、Gregory M.Reichberg et.al., eds., *The Ethics of War*, Blackwell Publishing, 2006, などのリーディング教材などを用い、各回のテーマに沿った古典や論文（英文）を熟読する。

第2回 古典(1)古代、原始・初期キリスト教【CiceroからAmbroseまで】

第3回 古典(2)【Augustine】

第4回 古典(3) 中世神学者(1)【Gratian, Thomas Aquinas(1)など】

第5回 古典(4) 中世神学者(2)【Thomas Aquinas(2)】

第6回 古典(5) 近世・近代【ius in bello, ius ad bellumなど】

第7回 古典総括、小レポート要旨報告

第8回 The Doctrine of Double Effect(1)【Boyle, Quinn, Waltzerなど】

第9回 The Doctrine of Double Effect(2)【二重結果の応用】

第10回 E.M.Anscombeの戦争観

第11回 Noncombatant immunity

第12回 Self-Defense

第13回 Collective Defense

第14回 期末レポート要旨報告

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30%）、予習状況（30%）、レポート（40%）から評価したい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。  
履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

1学期の安全保障研究を履修済みであるかは問わないが、内容的には、2学期で扱うもののほうが高度でより専門的となる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際政治経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際政治経済の様々な理論を理解し、複雑化する国際政治経済の諸問題を専門的に論じることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際政治経済に関する事項について、修得した知識と技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際政治経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。  
 野林健・長尾悟『国際政治経済を学ぶ - 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。  
 ○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年  
 - Joseph M. Grieco & G. John Ikenberry, State Power and World Markets: The International Political Economy, W W Norton & Co Inc, 2002.  
 - Benjamin J. Cohen, International Political Economy: An Intellectual History, Princeton University Press, 2008.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。  
 ○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。  
 関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年  
 ○Robert Gilpin, Global Political Economy: Understanding the International Economic Order, Princeton University Press, 2001.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) プレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
- 第9回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第10回 国際金融秩序の構築
- 第11回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
- 第12回 地域主義の展開(2) ヨーロッパの統合
- 第13回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
- 第14回 科学技術と国際政治経済
- 第15回 まとめ

# 国際政治経済研究 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加（議論への貢献度など）...20%、期末レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

## 教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)
- Lesson 2: The origins & development of the English language
- Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)
- Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)
- Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)
- Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)
- Lesson 7: Review #1 (units 1-7)
- Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)
- Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)
- Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)
- Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)
- Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)
- Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)
- Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)
- Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

# 英語表現法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

## 教科書 /Textbooks

*Adventures of Huckleberry Finn* Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4  
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1-4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5-8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9-12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13-16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17-23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24-27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28-31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32-35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36-40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何を読者に伝えようとしての結果なのか。
- 12回 41-43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

## アメリカ文学研究 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を事前に読んでおくこと。  
また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。  
発表の担当となっている場合は、指示に従ってレジユメを作成しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「事実上の国際共通語」の地位を得て久しい英語ですが、それゆえにグローバル化が進むのにあわせ、この言語に習熟することが前にもまして重要になってきています。何らかの形で英語と関わる分野の研究を深めようとする皆さんは、たとえ直接英語教育に携わる立場に立たなくとも、英語学習者の方々の助言を行なうなど、さまざまな形で間接的に英語教育にかかわることとなります。

この授業では、タスクを中心とした学習法の研究を行なっているクレイグ・ランバート先生と、おもに通訳教育を専門としている伊藤健一の2名の教員がそれぞれの得意とする領域についてお話しし、皆さんと意見交換をしながら学びを深めていきたいと思えます。第2回から第9回までをランバート先生が、第1回と第10回以降を伊藤が担当します。なお、一部メニューが重複しますが、復習として、また異なる見解に触れる機会として考えていただければ幸いです。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業ではプリントなどを用い、皆さんの学習の便宜を図ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：英語を取りまく世界の状況
- 第02回 Types of Language Knowledge
- 第03回 Approaches to Language Teaching
- 第04回 Discourse Demands
- 第05回 Task Sequencing
- 第06回 Lesson Planning
- 第07回 Teaching Methods
- 第08回 Learner Motivation
- 第09回 Evaluating Learners Performance
- 第10回 言語習得理論と学習法
- 第11回 リーディングの指導
- 第12回 リスニング・スピーキングの指導
- 第13回 文法・作文の指導
- 第14回 教材と授業運営
- 第15回 通訳教育からの提言

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い50% + 学期末レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 英語教育法研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 社会システム総合概論 【夜】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 (ペア) /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 社会システムにおける基礎的で共通の知識を修得し、各専攻での専門的な知識や理解の礎を形成できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	△ 各専攻での専門的な課題に対して、適切な分析の基礎が修得できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 各専攻で修得する専門的知識を駆使して、社会の様々な課題に主体的に取り組む姿勢を修得できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会システム総合概論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代の社会システム全般を大きく対象として取り上げ、その構造や機能、さらにはそれらの動態の変化等について考察する。その際、つねに実態を重視するとともに、複合領域的な視点からアプローチをしていくことを共通の目標としていく。したがって、受講生の専攻分野に関わりなく、個別具体的な問題意識を顕在化させることに努めるとともに、同時にその専門化された分析手法の有効性や限界についても、論理的かつ実証的に習得するように努める。具体的には個々の受講生が複合領域的な観点から相互に討議しまたこれへの参加を得て、よりその内容を研鑽し発展させて行く。

## 教科書 /Textbooks

授業の性格上、共通のテキストは指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

高橋昌一郎 「哲学ダイバート：〈倫理〉を〈論理〉する」 NHKブックス [ 1097 ] 2007年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

多様で多方面にわたる総合的な演習を行う関係から、その進行状況にあわせた演習内容とスケジュールとなる。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 社会システムとは：発表および討議
- 3回 社会システムとは：発表および討議
- 4回 論理的思考に関する講義および討議
- 5回 論理的思考に関する講義および討議
- 6回 例題演習および討議
- 7回 例題演習および討議
- 8回 学生による報告の中間発表
- 9回 学生による報告の中間発表
- 10回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献、20%：課題1、20%：課題2、25%：課題3、35%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 社会システム総合概論【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

自分の専門分野を超えていろいろな視点から研究対象をとらえられるべく、視角を広げ他分野の研究に対して臆することなく議論を行うことが必要。その上で自らの研究テーマの客観化を行い、その有効性等を確認する作業に努めることが、各授業へ対する準備となる。  
社会システム研究科博士前期課程学生は必須科目。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

討論中心であり、学生間および学生と教員との相互の意見交換・意思疎通が重要となる。活発な議論を期待する。

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会心理学に関連する研究を進めていくための基礎的な指導を行う。研究テーマを絞り、研究史をまとめる作業を行いつつ、研究方法の予備的検討を行う。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2～14回目 発表や討論など
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容50%、研究遂行上の積極性50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。  
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)  
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。  
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。  
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。  
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。  
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。  
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する  
平素…40%、課題…40%、討議…20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマおよびその方法論を検討することを目的とする。研究テーマにおいては人間の基本的特性を理解した上で、人間関係に関わる諸問題を検討する。さらに、方法論においては人間関係に関わる諸問題についてどのような調査・分析が可能かを検討する。そして、修士論文のテーマを具体化することが目標となる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山田剛史・林創 (2011). 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房  
○大野木裕明・中沢潤 (編著) (2002). 心理学マニュアル研究法レッスン 北大路書房  
○浦上昌則・脇田貴文 (2008). 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2回～第15回 研究指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて、十分に検討しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法の習得するために、テーマに関する文献収集とその検討や研究手法に関する指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
資料は初回の授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討1【研究目的・課題をめぐって】
- 3回 研究計画の検討2【研究方法をめぐって】
- 4回 修士論文に関わる文献の購読1【修士論文・課題】
- 5回 修士論文に関わる文献の購読2【修士論文・方法】
- 6回 修士論文に関わる文献の購読3【日本教育制度学会・学会誌掲載論文】
- 7回 修士論文に関わる文献の購読4【日本教育政策学会・学会誌掲載論文】
- 8回 修士論文に関わる文献の購読5【日本教育経営学会・学会誌掲載論文】
- 9回 修士論文に関わる文献の購読6【日本教育法学会・学会誌掲載論文】
- 10回 修士論文に関わる文献の購読7【日本教育社会学会・学会誌掲載論文】
- 11回 研究方法1【フィールドワーク・学校】
- 12回 研究方法2【フィールドワーク・学校外教育】
- 13回 研究計画の検討3【先行研究の検討(研究目的・課題をめぐって)】
- 14回 研究計画の検討4【先行研究の検討(研究方法をめぐって)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...40% 発表報告...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基礎力を身につけることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。プリントを配布する予定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定と討論①
- 第3回 研究テーマの設定と討論②
- 第4回 研究テーマの設定と討論③
- 第5回 研究テーマの設定と討論④
- 第6回 関連資料の講読と討論①
- 第7回 関連資料の講読と討論②
- 第8回 関連資料の講読と討論③
- 第9回 関連資料の講読と討論④
- 第10回 関連資料の講読と討論⑤
- 第11回 関連資料の講読と討論⑥
- 第12回 関連資料の講読と討論⑦
- 第13回 関連資料の講読と討論⑧
- 第14回 関連資料の講読と討論⑨
- 第15回 関連資料の講読と討論⑩

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会問題としての生活問題に関する理論を基礎にして、対象者を権利の主体として位置づけるための社会福祉研究のあり方について、文献研究を通して深めていく。

## 教科書 /Textbooks

適時指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献講読と討論
- 3回 文献講読と討論
- 4回 文献講読と討論
- 5回 文献講読と討論
- 6回 文献講読と討論
- 7回 文献講読と討論
- 8回 問題意識を深めるための中間討論
- 9回 文献講読と討論
- 10回 文献講読と討論
- 11回 文献講読と討論
- 12回 文献講読と討論
- 13回 文献講読と討論
- 14回 文献講読と討論
- 15回 まとめの討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

指定するテキストの中には、すでに絶版となっている物も含まれているため、文献探索の労をいとわない様にしてほしい。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のための基本的学習を行う。受講生の研究計画について話し合い、問題意識を掘り下げ、研究テーマが明確化できるような支援を行う。参考文献を読むことで、研究の方法や論文執筆に役立つ福祉の理論的枠組みについて検討できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談の上決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談の上決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究計画の検討
- 3回 研究計画の検討
- 4回 研究文テーマに関する参考文献の収集と検討
- 5回 研究文テーマに関する参考文献の収集と検討
- 6回 参考文献の講読
- 7回 参考文献の講読
- 8回 参考文献の講読
- 9回 参考文献の講読
- 10回 参考文献の講読
- 11回 参考文献の講読
- 12回 参考文献の講読
- 13回 参考文献の講読
- 14回 研究計画の検討
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50%、研究活動への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での2年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究計画の検討
- 4回 文献購読 第1章
- 5回 文献購読 第2章
- 6回 文献購読 第3章
- 7回 文献購読 第4章
- 8回 文献購読 第5章
- 9回 文献購読 第6章
- 10回 参加者の研究計画の再検討
- 11回 事例検討 その1
- 12回 事例検討 その2
- 13回 事例検討 その3
- 14回 事例検討 その4
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

2年間の研究活動を見通して、問題意識をしっかりとって参加してほしい。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究計画、研究方法

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究テーマ・研究課題の設定方法、課題に応じた資料の収集方法や、調査方法等の論文作成に必要な知識について学び、課題の明確化と研究への着手を進める。

## 教科書 /Textbooks

授業の中で紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文作成にあたって (概要説明)
- 第2回 問題意識の整理
- 第3回 研究方法1 (研究の種類)
- 第4回 研究方法2 (研究の進め方)
- 第5回 研究計画書の書き方
- 第6～10回 研究計画書の発表 (第1回目)
- 第11～14回 研究計画書の修正 (第2回目)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表と授業への積極的関与により評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

研究テーマと研究計画について必ず整理してくる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、研究と修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とします。研究テーマに関する文献・資料の収集，研究の方法論を学び，研究を独自で展開するのに必要な能力をつけるとともに，論文執筆に必要なスキルを身につけます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。  
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。  
人間関係に関わる諸課題について調査できる。  
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2回～第15回 論文執筆指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
  - 第2回調査方法検討
  - 第3回周辺領域の文献収集
  - 第4回文献リストの作成
  - 第5回 先行研究に関する批判
  - 第6回先行研究に関する総論
  - 第7回調査計画
  - 第8回調査計画の再検討
  - 第9回仮説作成
  - 第10回 仮説作成の再検討
  - 第11回予備調査
  - 第12回予備調査の再検討
  - 第13回先行研究との関連性
  - 第14回本調査への準備
  - 第15回 まとめ
- 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
- ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

# 特別研究基礎 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %  
各自の調査研究 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加状況含む) ...40% 事前調査と発表内容...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること、発表までの作業計画をたてて準備しておくことが求められる。

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course will cover fundamental issues in second language teaching as background for future research in the field.

## 教科書 /Textbooks

Course materials will be arranged by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Brown, G. & Yule, G. 1983. Teaching the Spoken Language. Cambridge: Cambridge University Press.  
 Ellis, R. 2009. Task-based language teaching: sorting out the misunderstandings. International Journal of Applied Linguistics 19(3): 221-246.  
 Robinson, P. 2011. Task-based language teaching: a review of the issues. Language Learning 61(supplemental issue): 1-36.  
 Samuda, V. & Bygate, M. 2008. Tasks in Second Language Learning. London: Palgrave Macmillan  
 Skehan, P. 1996. A framework for the implementation of task-based instruction. Applied Linguistics 17(1): 38-62.  
 Yule, G. 1997. Referential Communication Tasks. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Types of Language Knowledge
2. Types of Communication
3. Approaches to Language Teaching
4. Types of Discourse
5. Designing Learning Tasks
6. Presentation #1
7. Sequencing Learning Tasks
8. Evaluating Learning Tasks
9. Presentation #2
10. Classroom Interaction Patterns
11. Learner Motivation
12. Learner Involvement
13. Presentation #3
14. Corrective Feedback
15. Achievement

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-Class Presentations 50%  
 Final Report 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course will be taught in English.

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品を読破することで、自分の扱う作品やテーマを絞り込み、それらに対する批評方法を意識化できるようになること。

- ①英米語圏の文学の知識を応用し、論文作成の基本能力を養うこと。
- ②英米語圏の文学作品や批評理論の資料を分析できる技能を修得すること。
- ③英米語圏の文学の課題を主体的に分析できる態度を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 特別研究基礎 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	導入。担当学生と相談の上、1学期の予定表を作成します。
第2回	テーマに沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
第3回	前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
第4回	前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
第5回	前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
第6回	前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
第7回	前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
第8回	前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
第9回	前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
第10回	前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
第11回	前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
第12回	前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
第13回	前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
第14回	前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
第15回	総括。修士論文の題目を決定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書... 80% 授業への参加度など... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出す課題をしっかりとこなしていきましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

## 教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指摘する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎1）
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎2）
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎3）
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎4）
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎5）
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開1）
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開2）
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開3）
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開4）
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開5）
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用1）
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用2）
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用3）
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用4）
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用5）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題を準備してくること。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文学作品の読解、批評論文の読解を通して、アメリカ文学を分析する際の手法を理解し、身に付けることを目的とする。  
授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定するが、本年度はジョン・スタインベックの小説の精読を行う予定である。また、修士論文の執筆に必要な資料の収集、読解、活用に関する指導と、修士論文の構想の作成に関する指導も行なう。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回の授業時に、受講生の興味の所在を踏まえた上で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性に関する詳細の決定
- 2回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：図書館
- 3回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：ネット活用
- 4回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：他大学蔵書
- 5回 最初に決めたテーマと関連した作品の読解
- 6回 最初に決めたテーマと関連した作品の分析
- 7回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の読解
- 8回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の分析
- 9回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の精読
- 10回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の読解
- 11回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の分析
- 12回 修論のテーマに関する指導
- 13回 修論の構想に関する指導：章構成について
- 14回 修論の構想に関する指導：各章の内容について
- 15回 レポートの提出・講評

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の学習状況50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に与えられた課題を行っておくこと。  
夏休み中に修士論文の構想を確定し、夏休み明けの最初の授業時に発表する必要がある。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のために必要な基礎的知識と方法論を学ぶ。修士論文のテーマに関する文献収集のやり方や収集した文献の評価検討のやり方や研究の方法論について習得する。

## 教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 研究目的論
- 3回 研究課題論
- 4回 資料収集の手ほどき
- 5回 資料収集の実践
- 6回 収集した資料の評価
- 7回 研究方法論(19世紀まで)
- 8回 研究方法論(20世紀前半)
- 9回 研究方法論(1960年代・70年代)
- 10回 研究方法論(1980年代・90年代)
- 11回 研究方法論(2000年代以降)
- 12回 先行研究の評価に関して
- 13回 研究論文作成の手ほどき
- 14回 研究論文作成の実践
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

# 特別研究基礎 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。  
演習室はコロシウム。

## キーワード /Keywords

【文献収集】 【文献の評価検討】 【研究の方法論】

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究課題に取り組むための準備として十分な文献講読を行い、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等の基礎を指導する。

## 教科書 /Textbooks

未定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 文献講読とディスカッション(1)
- 5回 文献講読とディスカッション(2)
- 6回 文献講読とディスカッション(3)
- 7回 文献講読とディスカッション(4)
- 8回 文献講読とディスカッション(5)
- 9回 文献講読とディスカッション(6)
- 10回 文献講読とディスカッション(7)
- 11回 文献講読とディスカッション(8)
- 12回 文献講読とディスカッション(9)
- 13回 学生による研究報告(1)
- 14回 学生による研究報告(2)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、これから大学院での研究活動を始めるにあたって必要な基礎力を身に付けるためのお手伝いをしたいと思います。あくまでも研究の主体は受講生ですから、こちらから何かを教えるというのではなく、主体的に取り組んでこられたことを確認し、発展させるための手助けをしたいと思います。これから2年間しっかりがんばりましょう。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究方針の確認(1)
- 第02回 必要な文献の購読と吟味(1)
- 第03回 必要な文献の購読と吟味(2)
- 第04回 必要な文献の購読と吟味(3)
- 第05回 必要な文献の購読と吟味(4)
- 第06回 必要な文献の購読と吟味(5)
- 第07回 必要な文献の購読と吟味(6)
- 第08回 必要な文献の購読と吟味(7)
- 第09回 学期末小論文の作成準備協議(1)
- 第10回 学期末小論文の作成準備協議(2)
- 第11回 学期末小論文の作成準備協議(3)
- 第12回 学期末小論文の作成準備協議(4)
- 第13回 学期末小論文の作成準備協議(5)
- 第14回 学期末小論文の作成準備協議(6)
- 第15回 学期末小論文の作成準備協議(7)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、学期末小論文によって評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

論文作成の基本知識と技巧を習得する。

## 教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配る。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

鄧紅著『王充新八論』（中国社会科学出版社2003年）○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 先行研究の選定
- 第二回 先行研究の引用
- 第三回 学術論文の章節
- 第四回 学術論文の構造
- 第五回 学術論文の言語表現
- 第六回 論文の標点
- 第七回 論文のバランス
- 第八回 注釈の作成
- 第九回 参考資料の調査
- 第十回 資料の調べ方
- 第十一回 図書館の利用法
- 第十二回 インターネットと論文作成
- 第十三回 論文講読（1）
- 第十四回 論文講読（2）
- 第十五回 論文試作、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業準備40%、レポートの完成度60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

論文作成道具の用意

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代中国語文法・語用論・教育法における研究成果をまとめ、修士論文のテーマを考える。

## 教科書 /Textbooks

関係ある論文・最新研究資料のコピーを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
現代中国語文法に関する問題を分類する。  
問題別に研究現状をまとめる。  
修論のテーマを決めた上で、関係ある論文を読む。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 板谷 俊生 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

原書の読解力の養成。各自の修士論文テーマを絞り込む。各自の修士論文に関連する種々の論文を多読し、批判的検討を加える。20世紀の中国文学芸術運動、特に中国近代の幕開けから五四新文化運動を経て、魯迅の死に至るまでの、中国の主に文学芸術界の状況を中心に体系的に深く研究する。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 清末の文学・ 譴責文学 (1) 【李伯元『官場現形記』】
- 第2回 清末の文学・ 譴責文学 (2) 【劉鉄雲『老残遊記』】
- 第3回 清末の文学・ 譴責文学 (3) 【吳趸人『二十年目睹之怪現狀』】
- 第4回 清末の文学・ 譴責文学 (4) 【曾孟樸『孽海花』】
- 第5回 清末の文学・ ジャーナリズム【梁啓超】
- 第6回 清末の文学・ 【日本留学と新文学の萌芽・ 魯迅】
- 第7回 中華民国期の文学【アメリカ留学と文学革命・ 胡適】
- 第8回 中華民国期の文学【「新青年」と新詩】
- 第9回 中華民国期の文学【「新青年」と日本留学帰りの北京大学教授たち】
- 第10回 中華民国期の文学【新文学の登場・ 『狂人日記』】
- 第11回 中華民国期の文学【「新青年」の空中分解と彷徨する魯迅】
- 第12回 中華民国期の文学【「文学研究会」と「創造社」の台頭】
- 第13回 中華民国期の文学【文学革命から革命文学へ】
- 第14回 中華民国期の文学【中国左翼作家聯盟と魯迅の死】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度が高い授業になるので集中して受講すること。

# 特別研究基礎 【夜】

## キーワード /Keywords

清末の文学、中華民国期の文学、五四新文化運動

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

受講生各自が日本宗教史の領域の中から興味のあるテーマに関する代表的研究論文を読み、その内容について報告する。さらに報告について全員で議論する。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 日本宗教史研究の課題 ( 講義 )
- 3回 報告と議論
- 4回 報告と議論
- 5回 報告と議論
- 6回 報告と議論
- 7回 報告と議論
- 8回 報告と議論
- 9回 報告と議論
- 10回 報告と議論
- 11回 報告と議論
- 12回 報告と議論
- 13回 報告と議論
- 14回 報告と議論
- 15回 報告と議論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 50% 授業への取り組み 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本宗教史



# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、認知言語学、認知文学

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次      単位 /Credits: 2単位      学期 /Semester: 1学期      授業形態 /Class Format: 演習      クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

## 教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 Orientation and guidance for thesis research.
- 4回～6回 Introduction of student thesis topics and materials.
- 7回～11回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 12回～15回 Discussions and Presentations led by students based on the contents of materials.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 40%Final 2000 word paper 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、どのような課題について論文を書くか、また、その受講生のこれまでの学習・研究状況に応じて、必要な文献講読を行う。同時に、言語学分野における論文執筆作法の基礎を身につける。言語学の下位分野1領域の興味のある課題について、小さな論文をまとめる。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生との相談
- 第2回 - 第5回 文献講読（音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論）
- 第6回 - 第10回 言語学の課題についての議論
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、言語学の下位分野の中から、興味のある課題を選び、論文を作成する。受講生が選んだテーマに応じて、必要な文献講読を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1) 文献講読を通して、言語学に関する知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の基礎を身につける。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
 その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第10回 文献講読
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための研究報告と研究指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし、研究課題に即して指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告と指導
- 第3回 研究報告と指導
- 第4回 研究報告と指導
- 第5回 研究報告と指導
- 第6回 研究報告と指導
- 第7回 研究報告と指導
- 第8回 研究報告と指導
- 第9回 研究報告と指導
- 第10回 研究報告と指導
- 第11回 研究報告と指導
- 第12回 研究報告と指導
- 第13回 研究報告と指導
- 第14回 研究報告と指導
- 第15回 研究報告と指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告と討論により100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

中華人民共和国の共産党一党支配体制と市場経済化との関係について検討し、改革開放政策に対する評価を試みる。中国研究の資料・文献について収集・読解能力を養う。詳細は受講生の関心に応じて決定する。学期末にレポートを課す。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールを進める。  
1回 インTRODクシヨシ  
2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論。  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。  
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。  
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

## 教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
  - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 15回 まとめ
- \* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・ 60%      ディスカッションへの参加状況・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究基礎 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。

## 教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
読解する文献、原典・古典は授業中決める。  
レジュメの作成・報告、討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% レポートや論文 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的に読むこと。

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

**授業の概要 /Course Description**  
 東アジア経済に関連したテーマで修士論文を作成することを前提として、東アジア経済の基本的文献とともに研究を進める上での方法論についても文献を精読していき、論文執筆に求められる知識と研究能力を身につけていく。

**教科書 /Textbooks**  
 研究テーマに応じて相談して決める。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 適宜指摘する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 第1回 イントロダクション  
 第2回～第14回 レジユメによる報告とディスカッション  
 第15回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 レポート 40% 報告 40% ディスカッション 20%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文を書くための基礎作業を行う

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

別途指示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第5回 研究史のまとめ方  
第6回～第15回 史料の探し方・読み方

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(4000字)・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、まず、研究テーマ（日本政治外交史）を決める手助けをしたい。

## 教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション  
第2回～15回 学生による報告とそれに対する指導。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

その都度指示します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理と、「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生に対して個別に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回～14回 修士論文の経過報告
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自が研究対象とする地域と課題を設定し、基本的な文献を収集・読破する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究する上での基本的姿勢（講義）
- 第3回：課題設定における諸注意（講義）
- 第4回～第14回：各自の報告・議論
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告内容50%
- レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生の必要に応じて開講する。  
戦後東南アジアの国際関係、政治や社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生による報告と議論を行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的・初歩的知識の獲得】を目指す。  
同時に、修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法（文献検索や参考文献の提示の仕方などの細かい点も含めて）を教示し、論文もしくは課題研究を完成させることを目指す。  
また何度か短い課題レポートを科し、添削をして返却する。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、以下を考えている。  
(1) 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。  
(2) 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。  
(3) Amitav Acharya, Constructing a Security Community in Southeast Asia, Routledge, 2001.  
(4) 服部民夫・船津鶴代・鳥居高編『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所、2002年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。  
○大阪市立大学経済研究所監修『アジアの大都市シリーズ』日本評論社、1998年～2000年。  
バンコク編、ジャカルタ編、クアラルンプル・シンガポール編、マニラ編の4冊がある。  
○Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 テキストとスケジュールの相談、説明  
第2～4回 『東南アジア現代政治入門』を3回に分けて輪読、議論する  
第5～7回 『アジア政治とは何か』を3回に分けて輪読、議論する  
第8～10回 Constructing a Security Community in Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する  
第11～13回 『アジア中間層の生成と特質』を3回に分けて輪読、議論する  
第14回 これまでの議論を踏まえて各人の課題レポートを決め、その内容を報告する  
第15回 まとめの議論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

# 特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国を中心とした社会の諸問題について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方などについての話し合い
- 2回 論文の書き方、資料収集方法などについての確認
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 文献講読と解説
- 5回 文献講読と解説
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 文献講読と解説
- 8回 文献講読と解説
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 文献講読と解説
- 11回 文献講読と解説
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 文献講読と解説
- 14回 文献講読と解説
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% 発表... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジユメを作って発表にのぞむこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション。  
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論  
第15回 まとめ  
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%  
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文執筆に向けての基礎的な指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論執筆に向けた基礎的な指導(1)
- 3回 修論執筆に向けた基礎的な指導(2)
- 4回 修論執筆に向けた基礎的な指導(3)
- 5回 修論執筆に向けた基礎的な指導(4)
- 6回 修論執筆に向けた基礎的な指導(5)
- 7回 修論執筆に向けた基礎的な指導(6)
- 8回 修論執筆に向けた基礎的な指導(7)
- 9回 修論執筆に向けた基礎的な指導(8)
- 10回 修論執筆に向けた基礎的な指導(9)
- 11回 修論執筆に向けた基礎的な指導(10)
- 12回 修論執筆に向けた基礎的な指導(11)
- 13回 修論執筆に向けた基礎的な指導(12)
- 14回 修論執筆に向けた基礎的な指導(13)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告準備を十分に整えておくこと。

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を用いながら、学生が独自の研究を進める基礎力をつけることを目指す。受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を持っていることを前提として進める予定である。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて授業時に適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業時に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国の政治・国際関係に関する基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による研究計画の発表(1)
- 4回 学生による研究発表(2)
- 5回 学生による研究発表(3)
- 6回 学生による研究発表(4)
- 7回 学生による研究発表(5)
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1)
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2)
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3)
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4)
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5)
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 特別研究基礎 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、修士課程の1年生が修士論文を作成する上で必要となるスキルを身に付けることを目指します。論文とはいかなるものであるかをまずは学び、論文作成上のアカデミック・ルールを身に付けます。次いで、実際に学術論文をもとに、論文の内容把握とともに、論理展開の方法について学習します。

## 教科書 /Textbooks

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半部分は上記テキストを用い、後半部分では学術論文のコピーを教材として使用します。

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 テキスト第1章、第2章
- 第3回 テキスト第3章、第5章
- 第4回 テキスト第7章
- 第5回 論文執筆のアカデミック・ルール
- 第6回 学術論文の解剖①(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第7回 学術論文の解剖①(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第8回 学術論文の解剖②(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第9回 学術論文の解剖②(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第10回 学術論文の解剖③(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第11回 学術論文の解剖③(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第12回 学術論文の解剖④(1) (英語論文) (内容把握)
- 第13回 学術論文の解剖④(2) (英語論文) (論理展開の分析)
- 第14回 学術論文の解剖⑤(1) (英語論文) (内容把握)
- 第15回 学術論文の解剖⑤(2) (英語論文) (論理展開の分析)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究基礎 【夜】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

国際機構を主題とする修士論文を作成するために、基礎的な文献や一次資料を収集し、かつこれらを整理するための技能を養う。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに  
第2回-第14回 報告と議論  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告30%、参加70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。  
 以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)  
 (1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。  
 (2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。  
 (3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。  
 (4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。  
 (5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。  
 (6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する  
 平素…40%、課題…40%、討議…20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集、研究の方法論を学び、研究を独自で展開するのに必要な能力をつける。研究テーマにおいては人間の基本的特性を理解した上で、人間関係に関わる諸問題を検討し、文献・資料の収集を行う。さらに、方法論においては人間関係に関わる諸問題についてどのような調査・分析が可能かを検討する。そして、修士論文を完成させるのに必要な能力をつけることが最終的な到達目標となる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第15回 論文執筆指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて、先行研究などを調べ十分に検討しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

特別研究基礎の成果及び出てきた課題をふまえ、研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法を習得する。

### 目標

- ① 研究に必要な知識を習得する。
- ② より効果的な研究法を選択、吟味し、実践する。

## 教科書 /Textbooks

なし。  
資料は初回の授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 文献の検討 1【研究論文・課題】
- 3回 文献の検討 2【研究論文・方法】
- 4回 文献の検討 3【日本子ども社会学会・学会誌掲載論文】
- 5回 文献の検討 4【日本教育学会・学会誌掲載論文】
- 6回 文献の講読 5【日本比較教育学会・学会誌掲載論文】
- 7回 文献の講読 6【異文化間教育学会・学会誌掲載論文】
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究方法 1【フィールドワーク・学校】
- 10回 研究方法 2【フィールドワーク・学校外教育】
- 11回 研究方法 3【面接・質問事項の精査】
- 12回 研究方法 4【面接・聞き取りの手法】
- 13回 研究計画の検討 1【先行研究の検討(研究目的・課題)】
- 14回 研究計画の検討 2【先行研究の検討(研究方法)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度 ...50%  
発表報告...50%

# 特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジюме等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

臨床心理学領域の修士論文を書くのに必要とされる知識・理論の習得や、問題の所在を明確化して研究デザインを導き出すための力を身につけることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献講読と討論①
- 第3回 文献講読と討論②
- 第4回 文献講読と討論③
- 第5回 文献講読と討論④
- 第6回 文献講読と討論⑤
- 第7回 文献講読と討論⑥
- 第8回 文献講読と討論⑦
- 第9回 文献講読と討論⑧
- 第10回 文献講読と討論⑨
- 第11回 研究デザインと討論①
- 第12回 研究デザインと討論②
- 第13回 研究デザインと討論③
- 第14回 研究デザインと討論④
- 第15回 研究デザインと討論⑤

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」

社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべきことを吟味する。

## 教科書 /Textbooks

適時指定する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 社会福祉研究の動向
- 第 6～10回 研究方法に関する検討
- 第11、12回 研究課題に関する報告と討論
- 第13、15回 研究論文の意味と位置

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のための基本的学習を行う。受講生の研究計画について話し合い、問題意識を掘り下げ、研究テーマが明確化できるような支援を行う。参考文献を読むことで、社会福祉の理論について学び、論文執筆に役立つ理論的枠組みについて検討できるようにする。研究計画を検討し、具体化できるように支援を行う。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究に関する報告と討議、検討
- 3回 研究に関する報告と討議、検討
- 4回 研究に関する報告と討議、検討
- 5回 研究に関する報告と討議、検討
- 6回 研究に関する報告と討議、検討
- 7回 研究に関する報告と討議、検討
- 8回 研究に関する報告と討議、検討
- 9回 研究に関する報告と討議、検討
- 10回 研究に関する報告と討議、検討
- 11回 研究に関する報告と討議、検討
- 12回 研究に関する報告と討議、検討
- 13回 研究に関する報告と討議、検討
- 14回 研究に関する報告と討議、検討
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50%、 報告・レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

報告のためのレポートの作成など、事前学習が必要になります。

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での2年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。

## 教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究計画の検討
- 4回 文献購読 第1章
- 5回 文献購読 第2章
- 6回 文献購読 第3章
- 7回 文献購読 第4章
- 8回 文献購読 第5章
- 9回 文献購読 第6章
- 10回 参加者の研究計画の再検討
- 11回 事例検討 その1
- 12回 事例検討 その2
- 13回 事例検討 その3
- 14回 事例検討 その4
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究活動の基礎

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究課題の整理と、研究方法の精緻化を進める。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 特別研究の進め方 (概要説明)
- 第 2～6 回 研究計画の修正と進捗報告
- 第 7～14 回 関連文献・関連論文の報告
- 第 15 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告により評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

必ず報告の準備をしてくること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、特別研究基礎から引き続き、研究と修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とします。研究テーマに関する文献・資料の収集，研究の方法論を学び，研究を独自で展開するのに必要な能力をつけるとともに，論文執筆に必要なスキルを身につけます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。  
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。  
人間関係に関わる諸課題について調査できる。  
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第15回 論文執筆指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

- 論文作成に向けて、以下のことを行う。  
 ( 1 ) 研究テーマ・問い、論証戦略、調査方法の確定  
 ( 2 ) 自らの研究テーマ・問いについての既存の研究の整理  
 ( 3 ) 調査法の習得

## 教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 研究テーマ・問いの確認
- 第 3 回 基本仮説・作業仮説・論証戦略の検討 / 既存研究の探索
- 第 4 回 基本仮説・作業仮説・論証戦略の検討 / 既存研究の探索
- 第 5 回 文献レビュー 1
- 第 6 回 調査法 1
- 第 7 回 文献レビュー 2
- 第 8 回 調査法 2
- 第 9 回 文献レビュー 3
- 第 10 回 調査法 3
- 第 11 回 研究報告 1
- 第 12 回 文献レビュー 4
- 第 13 回 調査法 4
- 第 14 回 文献レビュー 5
- 第 15 回 研究報告 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

理解度・・・ 20% 課題（レポート）・・・ 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

## 教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
  - 第2回本調査データの検討
  - 第3回周辺領域の文献
  - 第4回文献リストの作成
  - 第5回 先行研究に関する批判
  - 第6回先行研究に関する総論
  - 第7回補足調査計画
  - 第8回補足調査計画の再検討
  - 第9回中間発表準備および章立ての作成
  - 第10回 章立ての再検討
  - 第11回論文指導
  - 第12回論文指導
  - 第13回論文指導
  - 第14回論文指導
  - 第15回 まとめ
- 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
- ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

# 特別研究 1 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %  
各自の調査研究 ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 修士論文発表会への参加

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加状況含む) ...40% 事前調査と発表内容...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること、発表までの作業計画をたてて準備しておくことが求められる。

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

The course will provide a foundation for research in TESOL by addressing topics such as: How do you plan a TESOL research project? How do you analyze research data qualitatively and quantitatively? How should you report your results?

## 教科書 /Textbooks

Brown, J.D. 2014. Mixed Methods Research for TESOL. Edinburgh University Press. ISBN-10: 0748646396, ISBN-13: 978-0748646395

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Additional references will be provided by the instructor in line with students' specific needs and interests.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The qualitative/quantitative continuum
2. Planning a project
3. Gathering data
4. Analyzing data
5. Report #1
6. Interpreting results
7. Reporting
8. Research in classrooms
9. Action research
10. Report #2
11. Conversation analysis
12. Discourse analysis
13. Surveys
14. Program evaluation
15. Report #3 (Project Proposal)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Report #1: 25%  
Report #2: 25%  
Report #3: 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品の中から自分の扱う作品やテーマを決定し、それらに対して批評方法を実践し、方向性を見出せるようになること。

- ①英米語圏の文学の知識を応用し、論文完成の基本能力を養うこと。
- ②英米語圏の文学や批評理論の資料を分析し、研究に応用できるようになること。
- ③英米語圏の文学に関する課題を主体的に考える態度を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 特別研究 1 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	導入。担当学生と相談の上、2学期の予定表を作成します。
第2回	1学期に決定した修士論文の題目に沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
第3回	前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
第4回	前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
第5回	前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
第6回	前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
第7回	前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
第8回	前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
第9回	前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
第10回	前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
第11回	前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
第12回	前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
第13回	前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
第14回	前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
第15回	総括。修士論文のおおよその流れの決定。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

## 教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で、必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、平素

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、アメリカ文学、特に小説を分析する際の研究方法に関する理解を深め、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味のある領域を踏まえたうえで決定し、可能な限り、修士論文の作成につながる形での授業を行いたい。本年度は、ジョン・スタインベックの小説と批評論文の精読を行う予定である。前期に引き続き、修士論文執筆に必要な資料の読解と、収集に関する指導を継続する。後期は、夏休み明けに提出してもらった修士論文の構想を入念に検討し、その構想を確定する作業も行ないたい。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回の授業時に、受講生の実情を踏まえた上で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性の決定
- 2回 夏季休業中の研究に関する報告
- 3回 夏季休業中の研究に関する指導
- 4回 修士論文のテーマに関する指導
- 5回 修士論文の構想に関する指導
- 6回 修士論文執筆に必要な資料の収集
- 7回 修士論文執筆に必要な資料の読解
- 8回 修士論文執筆に必要な資料の分析
- 9回 修士論文で取り上げる作品の精読：ストーリー展開
- 10回 修士論文で取り上げる作品の精読：人物描写
- 11回 修士論文で取り上げる作品の精読：伝記との関連性
- 12回 修士論文で取り上げる作品の精読：社会背景との関連性
- 13回 修士論文の構想の確定
- 14回 全体のまとめ
- 15回 次年度の研究に関する指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の研究状況50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

事前に与えられた課題を行っておくこと。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のために必要な応用的知識と方法論を学びます。修士論文のテーマに関する文献収集のやり方や収集した文献の評価検討のやり方や、研究の方法論について学びます。

## 教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に必要に応じて紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 資料収集の実践
- 3回 資料収集のまとめ
- 4回 収集した資料の評価
- 5回 研究方法論の検討 ( 19世紀まで )
- 6回 研究方法論の検討 ( 29世紀前半 )
- 7回 研究方法論の検討 ( 1960年代・70年代 )
- 8回 研究方法論の検討 ( 1980年代・90年代 )
- 9回 研究方法論の検討 ( 2000年代以降 )
- 10回 研究方法論のまとめ
- 11回 研究論文作成のための導入
- 12回 研究論文作成のための必要事項の確認
- 13回 研究論文作成の実践
- 14回 研究論文作成のまとめ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

# 特別研究 1 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。  
演習室はコロシウム。

## キーワード /Keywords

【文献収集】 【文献の評価検討】 【研究の方法論】

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

研究課題を具体化する能力の養成を目的に、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等を指導する。社会言語学的手法を用いて、人間の言語行動と彼らの属する社会との係わりを探究する課題の研究指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 方法論について検討(1)
- 5回 方法論について検討(2)
- 6回 方法論について検討(3)
- 7回 方法論について検討(4)
- 8回 方法論について検討(5)
- 9回 課題研究(1)
- 10回 課題研究(2)
- 11回 課題研究(3)
- 12回 課題研究(4)
- 13回 課題研究(5)
- 14回 学生による研究報告
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本学期から本格的な研究活動が始まります。来年度の修士論文を視野に準備を進めていきましょう。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究状況・課題の確認
- 第02回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
- 第03回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
- 第04回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
- 第05回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
- 第06回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
- 第07回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
- 第08回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
- 第09回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
- 第13回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
- 第14回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
- 第15回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の題目を確定し、基本構造と章節を定める。

## 教科書 /Textbooks

授業ごとに配る

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○鄧紅著『王充新八論統編』中国社会科学出版社2007年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文第1ブロックの作成
- 第2回 論文第2ブロックの作成
- 第3回 論文第3ブロックの作成、「はじめに」
- 第4回 論文第4ブロックの作成
- 第5回 論文第5ブロックの作成
- 第6回 論文第5ブロックの作成、「第一節」
- 第7回 論文第7ブロックの作成
- 第8回 論文第8ブロックの作成
- 第9回 論文第9ブロックの作成、「第二節」
- 第10回論文第10ブロックの作成
- 第11回論文第11ブロックの作成
- 第12回論文第12ブロックの作成、「第三節」
- 第13回論文第13ブロックの作成
- 第14回論文第14ブロックの作成、「おわりに」
- 第15回 まとめ、解説

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業準備 30%、レポートの完成度 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

論文と修論について討論する。

## 教科書 /Textbooks

体系的な研究論文と最新研究成果を反映してる資料のコピーを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
現代中国語文法に関する問題を分類する。  
問題別に研究現状をまとめる。  
修論のテーマを決めた上で、関係ある論文を読む。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

修論を作成するための授業であるので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 板谷 俊生 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

原書の読解力の養成ならびに各自の修士論文テーマを絞り込む。各自の修士論文テーマに関する種々の論文を多読し、批判的検討を加える。中国・清末の京劇改革運動から中国近代演劇の父と称される曹禺の登場を経て、中華人民共和国樹立後演劇家に転身した老舍等、代表的な作家・作品に目を通し、さらにそれらに関する各種論文を読み、批判的検討を加えていく。さらに、中国文化大革命時期の作家・作品や同時代につなげるためにノーベル文学作家で中国不条理の旗手・高行健の作品を解説する。

## 教科書 /Textbooks

プリント教材。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 清末の演劇【京劇】
- 第2回 清末の演劇【京劇改良運動】
- 第3回 清末の演劇【上海における話劇の誕生】
- 第4回 清末の演劇【日本・東京で話劇誕生】
- 第5回 清末の演劇【職業話劇団の誕生】
- 第6回 清末の演劇【辛亥革命と話劇運動】
- 第7回 中華民国の演劇【イブセン劇の受容】
- 第8回 中華民国の演劇【ロマンチスト田漢】
- 第9回 中華民国の演劇【洪深と中国初の女優登場】
- 第10回 中華民国の演劇【左翼劇作家夏衍の演劇】
- 第11回 中華民国の演劇【近代演劇の父・曹禺の演劇】
- 第12回 中華人民共和国の演劇【老舍の演劇】
- 第13回 中華人民共和国の演劇【文化大革命期の演劇】
- 第14回 中華人民共和国の演劇【不条理劇の旗手・高行健の演劇】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

なし。

# 特別研究 1 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

清末の京劇、中国話劇の誕生、中華民国期の話劇、中華人民共和国期の話劇

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生が各自興味関心のある日本宗教史に関する原典資料を選択し、それを読解・報告する。報告内容について全員で議論する。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論
- 3回 報告および議論
- 4回 報告および議論
- 5回 報告および議論
- 6回 報告および議論
- 7回 報告および議論
- 8回 報告および議論
- 9回 報告および議論
- 10回 報告および議論
- 11回 報告および議論
- 12回 報告および議論
- 13回 報告および議論
- 14回 報告および議論
- 15回 報告および議論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本宗教史

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor: ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 2単位 / 学期 /Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 演習 / クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生と相談した上で決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、表象、認知言語学、認知文学

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、修士論文作成の予備研究としての研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。そして、可能であれば複数の言語学関連教員の前での発表を通して、発表技術（ハンドアウト、発表、質疑応答への対応など）を身につける。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生との相談  
第2回 - 第9回 文献講読  
第10回 - 第13回 課題研究  
第14回 受講生による発表  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、修士論文作成のための予備研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。文献講読を通して、受講生の選んだテーマについて理解を深めながら、最後は、先行研究の概要をレポートとしてまとめる。到達目標は以下の通りである。

- (1)文献講読を通して、修士論文作成に必要な知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の技法を身につける。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指定。  
その他プリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講生と相談
- 第 2 回 - 第11回 文献講読
- 第12回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための研究発表と研究指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし、研究課題に即して指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告と指導
- 第3回 研究報告と指導
- 第4回 研究報告と指導
- 第5回 研究報告と指導
- 第6回 研究報告と指導
- 第7回 研究報告と指導
- 第8回 研究報告と指導
- 第9回 研究報告と指導
- 第10回 研究報告と指導
- 第11回 研究報告と指導
- 第12回 研究報告と指導
- 第13回 研究報告と指導
- 第14回 研究報告と指導
- 第15回 研究報告と指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告と討論により100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代中国の対外認識および外交の変遷について検討し、内政と国際要因が中国の対外的な行動に及ぼす影響を与えてきたのかについて理解を深める。また研究テーマに関する資料の収集・読解能力を養う。詳細は受講生の研究テーマに応じて決定する。学期末にレポートを課す。

## 教科書 /Textbooks

授業で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールを進める。  
 1回 インTRODクシヨN  
 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論  
 15回 レポート提出とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。  
 中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。  
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

## 教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
  - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
  - 15回 まとめ
- \* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・ 60%      ディスカッションへの参加状況・・・ 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 特別研究 1 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。このゼミは基本的に、1学期の「特別研究基礎」の延長線上にある。

## 教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回  
読解する文献、原典・古典は授業中決める。  
レジュメの作成・報告、討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% レポートや論文 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的に読むこと。

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東アジアの経済発展について事例研究に関する主要文献を熟読して、修士論文作成に必要な研究テーマの設定と資料収集、分析を行うことを目指す。

## 教科書 /Textbooks

最初の授業時に研究テーマを考慮して決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に必要に応じて指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、研究テーマの確認
- 2回～14回 各自、事例研究にかかわる文献を選んで、発表していく。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 40% 報告 40% ディスカッション 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

出来るだけ早い時期に、研究テーマに関する文献リストと各章の構成を確定しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本近世の対外交渉史とくにオランダとの関係に関する研究指導のための時間です。  
くずし字やオランダ語文法の習得により修士論文に必要な古文書やオランダ語史料の解読を行います。

基本的には調べてきたことを報告してもらう時間です。  
まず16か月間の研究計画を立てて、研究史の整理（先行研究の比較と分析）を報告してもらいます。  
その後、修士論文のために集めた史料を紹介してもらいます。それに基づいて分析と解読を行います。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

児玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』（東京堂出版）  
『講談社オランダ語辞典』（講談社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究計画①
- 第3回 研究計画②
- 第4回 研究史の整理①
- 第5回 研究史の整理②
- 第6回 研究史の整理③
- 第7回 基本史料の紹介①
- 第8回 基本史料の分析①
- 第9回 基本史料の紹介②
- 第10回 基本史料の分析②
- 第11回 基本史料の紹介③
- 第12回 基本史料の分析③
- 第13回 基本史料の紹介④
- 第14回 基本史料の分析④
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究史の整理（28000字程度）と基本資料の紹介と分析（14000字程度）の期末レポートによる

## 特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、研究テーマ（日本政治外交史）を絞り込み、必要史料を収集・解読する手助けをしていく。

## 教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。  
第2回～15回 学生による報告とそれに対する指導。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

その都度指示します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理を引き続き行い、論文のテーマとなる「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生に対して個別に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション  
2回～14回 修士論文の経過報告  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文作成へ向け、研究史を丹念にフォローし、論点を整理したうえで、課題を明確化する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究史の作り方（講義）
- 第3回～14回：各自の報告・議論
- 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告 50%
- レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

戦後東南アジアの国際関係に関する英語および日本語文献を輪読、受講生を中心とする報告と討論を通して、【大学院生として身につけておくべき学問的素養】を身につける。同時に、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法を教示し、論文を完成させること】を目指す。また課題レポートをいくつか科す。レポートは添削・評価をして返却し、修士論文作成の技能を高めていく。

## 教科書 /Textbooks

受講生の修士論文（もしくは課題レポート）のテーマによって相談して決定するが、以下が候補となる。

- (1)Ho Khai Leong and Samuel C. Kuo ed.,China and Southeast Asia, ISEAS, 2005.
- (2)岩崎育夫編『アジアと民主主義』アジア経済研究所、1997年。
- (3)山影進『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
  - \* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
  - \* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2～4回 China and Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
- 第5～7回 『アジアと民主主義』を3回に分けて輪読、議論する
- 第8～10回 『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』を3回に分けて輪読、議論する
- 第11～12回 これまでの議論を踏まえて、各自のテーマを決定して報告
- 第13～14回 報告に対する総括と全体の議論を2回に分けて行う
- 第15回 補足とまとめ

# 特別研究 1 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

## キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

受講生の修士論文のテーマに沿った文献講読ならびにプレゼンテーションを行う。

## 教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、各自で調査・収集する。また、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方などについての説明
- 2 回 論文作成方法や資料収集方法の確認
- 3 回 プレゼンテーションと討議
- 4 回 文献講読と解説
- 5 回 文献講読と解説
- 6 回 プレゼンテーションと討議
- 7 回 文献講読と解説
- 8 回 文献講読と解説
- 9 回 プレゼンテーションと討議
- 10 回 文献講読と解説
- 11 回 文献講読と解説
- 12 回 プレゼンテーションと討議
- 13 回 文献講読と解説
- 14 回 文献講読と解説
- 15 回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% プレゼンテーション... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの際には、レジュメを作成すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

## 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
 第2回 文献紹介  
 第3回 文献の背景説明  
 第4-8回 一冊目の輪読  
 第9回 文献の背景説明  
 第10-14回 二冊目の輪読  
 第15回 講義の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN。  
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論  
第15回 まとめ  
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%  
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文の指導。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論作成に向けた指導(1)
- 3回 修論作成に向けた指導(2)
- 4回 修論作成に向けた指導(3)
- 5回 修論作成に向けた指導(4)
- 6回 修論作成に向けた指導(5)
- 7回 修論作成に向けた指導(6)
- 8回 修論作成に向けた指導(7)
- 9回 修論作成に向けた指導(8)
- 10回 修論作成に向けた指導(9)
- 11回 修論作成に向けた指導(10)
- 12回 修論作成に向けた指導(11)
- 13回 修論作成に向けた指導(12)
- 14回 修論作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

報告準備を十分に整えておくこと。

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を用いながら、学生が独自の研究を進めることを目指す。受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を持っていることを前提として進める予定である。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて授業時に適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業時に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国の政治・国際関係に関する基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による研究計画の発表(1)
- 4回 学生による研究発表(2)
- 5回 学生による研究発表(3)
- 6回 学生による研究発表(4)
- 7回 学生による研究発表(5)
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1)
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2)
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3)
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4)
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5)
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

# 特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

各自興味ある研究課題を見つけ、修士論文を作成するためのスキルを身につける。到達目標は以下の通りである。

- ・ 国際経済論の分析アプローチを理解できる。
- ・ 諸経済理論により現実の国際経済問題を説明できる。
- ・ 学習したスキルを応用できる。

## 教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマを考慮して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
第2回～第14回 受講生による報告・討論  
第15回 課題の提出・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り込み 60% 課題の提出 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

大学院レベルのミクロ・マクロ経済学の履修が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、「保護する責任」という生成途上である新たな規範に焦点を当て、国際社会が紛争に介入するにあたっての諸課題について研究します。

## 教科書 /Textbooks

Richard Falk, Seeking Peace and Justice in the 21st Century: Humanitarian Intervention, Responsibility to Protect, and Legitimacy Wars, Routledge, 2014.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○ICISS, Responsibility to Protect, Ottawa: IDRC, 2001.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のFalkの文献を輪読し、ディスカッションを行う。  
 第1回 インタロダクション  
 第2回～第11回 Chap. 1～Chap. 10  
 第12回～第14回 国内外で発表された「保護する責任」についての学術論文を用いて輪読を行う。  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・70% レポート：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

国際機構を主題とする修士論文の作成に向けて、文献を収集および整理しつつ、修得した知識と技能をもとに問題関心を深める。

## 教科書 /Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに  
 第2回-第14回 報告と議論  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告30%、参加70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords